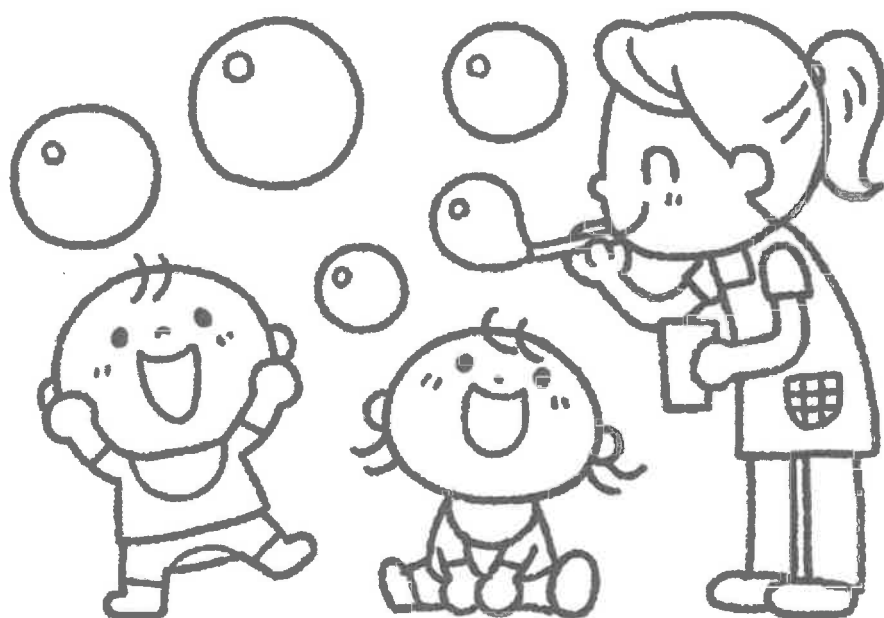


第31次（令和4年度）保育士研修会報告書

豊かな感性と広い視野を保育の中へ

《サブテーマ》

～信頼される保育士になるための一歩～



秋田県民間保育協議会

目 次

1	豊かな感性と広い視野を保育の中へ	1
	研修部長 かわぐち保育園園長 熊谷 優子	
2	研修内容一覧	2
3	講話内容・グループ討議記録	3
	第1回 保育のすてっぴワン!	3
	(第1回 グループ討議記録)	7
	第2回 子どもに関わる人にとって大事なこと	13
	(第2回 グループ討議記録)	20
	第3回 赤ちゃんの発達とアタッチメント	26
	第5回 遊びから生まれるアート	30
	(第5回 グループ討議記録)	33
4	研修に参加して	39
5	参加者名簿	54

『豊かな感性と広い視野を保育の中へ』
～信頼される保育士になるための一歩～

秋田県民間保育協議会
研修部長 熊谷 優子

令和2年初めから始まった新型コロナウイルス感染症の流行に、未だ世界中の人たちが苦しめられています。

私たちの生活も多くの影響を受け続けていますが、年を経るごとにコロナと共存しながら、保育の質を落とすことの無いよう工夫しながら、子どもたちの成長発達を一番に考え保育を続けています。

「オンライン研修」も2年目となりました。オンライン研修が他の研修でも当たり前となったことで、研修を受ける側と研修を開催する側のどちらもスムーズに対応できるようになりました。これも一つの学びととらえることが出来ると思います。

しかし、唯一の集合研修だった「清太郎さんの森」での研修は、県内全域から集まる研修ということもあり、今年度もコロナ感染のリスクを避けるため断念せざるを得ませんでした。

研修内容は、子どもの主体性を育むための環境構成や保育士の関わりについて一緒に考え、様々な捉え方や考え方に気づき保育に活かすきっかけとなるような構成で進めてきました。「子どもたちの一生に影響を与える重要な役割を担っていると改めて考えさせられた」「グループ研修では、たくさんのテーマについて話し合い、意見を聞いたり情報交換ができた」「自分の保育を振り返る機会となり、保育を見つめ直す機会となった」などの感想が寄せられました。

令和4年度は、研修対象を保育経験年数1年目から5年目の保育士・保育教諭とし、各地区から30名が参加者しました。

研修のすべてがキャリアアップ研修として認定されました。

これからも保育の基本をしっかり押さえ、子どもたち一人一人に寄り添った保育を心がけ、日々の教育・保育が充実したものとなるよう期待します。

令和5年度からは、県保協と県民保が一本化されますが、「保育士研修会」は継続いたします。

最後に、講師の先生方をはじめ30名の研修員を派遣して下さった各園の施設長様、そして、研修の運営をお手伝いいただいた事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。

第31次「保育研修会」内容一覧

回	月 日	講話テーマ ・ 講師
1	6月15日(水)	「保育のすてっぷワン！」(WEB) 大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子 氏
2	7月8日(金)	「子どもと関わる人にとって大事なこと」(WEB) 中居林こども園理事長 保育総合研究会代表 栴沢 幸苗氏
3	8月10日(水)	新任保育士研修会(WEB) 「赤ちゃんの発達とアタッチメント」 東京大学大学院教授 遠藤 利彦氏
4	9月15日(木)	「清太郎さんの森で遊ぼう」 秋田市下浜 健康の森 佐藤 清太郎氏 新型コロナウイルス感染症流行のため中止
	10月6日(木)	
5	11月11日(金)	「遊びから生まれるアート」(WEB) アーティストGOMA 小玉 倫也氏

第1回 「保育のすてっぷワン」

～ 保育士としてのスタート ～

講師 大館市教育委員会 山本 多鶴子氏

I 保育園職員として

(1) 保育とは、人が人を育てる営みであるがゆえに

- ・家族のような愛情と温かなまなざしを持って保育する
- ・近年では、園生活が長くなってきている傾向があるので、温かいまなざしで国家資格「保育士」としてプロフェッショナルとして、専門性を発揮した保育をすること

(2) 利用者が安心して預けられる保育園

- ・子どもが笑顔で登園できるように心がけること
- ・安全性、衛生面、家庭的、安心感、即対応などつまり、安心して預けることができるように努めること

(3) 利用者のニーズに応えられる保育園

- ・保護者の声（苦情・要望）に耳を傾け、受け止めてあげること

(4) 発達を支援する専門機関としての保育園

- ・養護と教育の一体化（責任をもってしっかりと行うことが望ましい）
- ・開所時間（12時間）すべてが保育時間であること

(5) 若くても、ベテランでも

- ★ あなたの第一印象が、社会、保護者から園の印象になるので、言動等に注意を払うようにすること

II 保護者に、地域に信頼される園、保育士

1 保護者の共感を得るさわやかな態度が大事

(1) 進んであいさつ、言葉かけ

- ・人なつこい笑顔、柔らかい視線、温かい言葉かけをすることで、園の印象がアップになる
- ・知らない来園者には、特に、こちらから言葉かけをすることで安心感がもてるようになる

(2) 正しく（立場をわきまえて）、感じのよい言葉遣いをする

- ・毎日顔を合わせる仲でも、さわやかな敬語、丁寧語で話をする
- ・荒い印象を与える方言やあまりにも今風の言い回しなどはしない
- ・基本は「はい」ときはきとした受け答えをすること

(3) 清潔感あふれる容姿、服装など見出しなみで判断されるので気をつけること

- ・髪型、エプロン、ズック、装身具（ピアス）など

（別紙 保育のステップワン！冊子参照）

- ・TPOをわきまえた服装をすること

（研修にふさわしい服装など）

(4) 親しい仲にも、適度な距離感をもつこと

- ・馴れ馴れしい態度や特定の保護者との長話、立ち話は、えこひいきを感じる保護者もいるので、特定の方との長話はしないこと

(5) 保育士としての品格として

- ・職場を離れても、周囲は「保育士」として見ていることを忘れないことまた、個人情報をお話さないこと
- ・保育現場でありがちな事が、保護者には不信感を生む材料になる場合があること
- ・信頼関係を築くことに時間はかかるが、壊れることはすぐであること

2 安心感を与えるプロ意識ある働き

(1) 保育が充実し、子どもが生き生きと過ごすことが、保育士に対する信用である

×激しい叱責、子どもへの厳しい態度、感情的な言動はどうだろうか？

- ・子どもへの注意の仕方、促し方を考えること

(2) 保育士としての向上心を持つように

- ・助言や要望を積極的に聞いて、取り入れようとする姿勢がだいじである
- ・研修で得たことをすぐに実行しようとする

※研修で、自分が気を付けたいこと、明日にでも取り入れられることを把握し見極めて保育実践に移すようにすること

×いつも同じ、工夫がない、進歩や変化がない保育はいかがなものか

(3) 計画性と職員の意思疎通が見える動きをすること

※“ほうれんそう”が基本になる

(4) 仕事への責任を持つこと

- ・約束、期日、時間を守る（社会人としての基本）、頼まれたことを忘れない（保護者は、どきどきしながら意を決して伝えている。）

- ・忙しいなかにも、しっかり見てくれている、細やかに対応してくれているという安心感を持ってもらうこと

×勤務時間内の保育者同士のおしゃべり、私用の携帯、軽はずみな噂話、第三者の批判、第

三者からの情報入手することは、信用にかかわる行為なので、守秘義務等に十分気を付けること

(5) 職業人としての常識とは

- ・遅刻、無断欠勤はしないこと
- ・敬語、場や立場をわきまえた言動をすること

3 誠実さ、真心の伝わる対応

(1) 声をかけられたら、忙しくても目を見て聞く姿勢をとること

×通りがかりに、話半分に、聞かない態度はどうかなあ

(2) 落ち度がある場合は、とにかく素直に、丁寧に謝ること

(3) 落ち度がなくても、相手が苦情や不平不満を伝えている場合は、謙虚に耳を傾ける事は、すなわち、すべてを聞く態度でトラブルを悪化させないようにする

(4) 相手の立場に立って、まず共感する姿勢で接すること

※傾聴の姿勢をしっかりと行うこと

(5) 事実と主観を分けて伝えること

例：「たいしたことのないケガ」

- ・こちらの主観と相手の受け止めのズレが苦情を生む場合があるので、主観を言わないこと
- ・けがの状況を伝えること

4 信頼できる組織とは

(1) 園内のホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）がしっかりされている組織は信頼される

- ・外部（外部の人は、園全体が周知、つながっていると思っている）からの問い合わせに、「別の人に聞いて」「私は知りません」は言わずに、「担当の者を呼びます」などと対応すること
- ・一人に話せば全員に周知されるはずと思われて当然「話が伝わっていない」ということがないようにすること

(2) 守秘義務が徹底していることは、信頼につながる

(3) 立場をわきまえる振る舞いができること

- ・園内では、（園長、主任、主査）や先輩に対しての敬う態度、敬語を使うこと
- ※「ご苦労様でした」でなく「お疲れさまでした」と言きましょう

- ・園外に向けては、同じ組織の人間としての態度をとること
- ※「園長先生はいらっしゃいません」ではなく「園長は本日不在です」（上司の場合）
- ※「山本先生（職場の先生）はお休みです」ではなく「山本は本日休みです」（同僚の場合）
- 以上のように受答えの仕方を知るようにすること

Ⅲ 同僚に信頼される保育士

- (1) 経験がないから、新鮮な目で見、新鮮な心で受け止められる
- (2) 若さゆえの明るさ・はつらつさは、一番の魅力なので自信を持つこと
- (3) 若いから許される
 - ・失敗を恐れずにやってみること
 - ・失敗したら素直に謝ること（先輩たちから話を聞いてみる）
 - ・若さゆえに知らないことは、教えてもらえる、注意してもらえる
- (4) 若い時の苦労は一生の宝物になる
 - ・見て、真似て、聞いて、動いてみて自分のものにする（先輩の動きなどをよく見ること）
- (5) 人の話を聞ける人は伸びる、悩むからこそ進歩する過程になる
- (6) 先輩を敬う気持ちや態度は、とても大切、教えてもらったことの感謝の言葉を伝えるようにすること

おわりに

- ・学ぼうとする前向きさは、だれもが認める姿勢です。
- ・経験の差はデメリットであり、メリットである事を認める。
- ・保育園は、子どもとだけ接する仕事ではないこと。
- ・保護者、同僚の人間関係に悩んだ時には、保育士を目指した原点、子どもが好き、人が好きを思い出してみよう。
- ・子どもの笑顔、日々の成長は、保育士の一番の喜びです。
- ・乳幼児期は、人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に関わろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度が培われる大切な時期です。それゆえに、保育に向かう姿勢は大変であり、やりがいがある仕事とも言えます。

記録 研修部 小田島久子

(A)グループ討議記録 (第1回目)

研修日	2022.6.15(水)
講話テーマ	「保育のすてっぷワン！」
討議課題	・今回の研修で学んだこと ・今後の自分の課題について
記録者	園名 にこにここども園 氏名 金子敏弥

《今回の研修で学んだこと》

- ・環境について真似るだけでなく、そこにある意味が大事であり、環境構成だけではなく、子どもとの関わり方に気をつけていきたい。友達に手が出てしまい、トラブルの際には、「〇〇したらだめ」などのマイナスな伝え方に気をつけ、マイナスの発言よりもプラスの発言で子どもの良いところを見つけてあげる大切さを学んだ。以上児クラスでは、子ども同士で話し合いや注意をする姿があるが、保育者が子どもに対しての発言の真似をする姿が見られるので言葉掛けに気を付けていきたい。

《今後の自分の課題について》

- ・子どもができることが甘えでやってもらいたいという行動に対して、「できるからやらせたい」が多かったが、気持ちを受け止める大切さや子どもが主体的に動いて心に残る、やってみたい遊びの環境を構成し、子どもの可能性を信じて、何の意味があるのか長期的に見て見通しを持った活動を大切にしていきたい。また、ねらいと目標を立てることで何を学んでほしいのか考えながら言葉にして伝え、子どもの気持ちを汲み取って代弁していきたい。

(B)グループ討議記録 (第1回目)

研修日	2022.6.15 (水)	
講話テーマ	「保育のすてっぴワン!」	
討議課題	・ 今回の研修で学んだこと	・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 だしのこ園	氏名 藤原美空

《今回の研修で学んだこと》

今回の研修ではコミュニケーション、報告・連絡・相談、言葉遣いが大切だと学んだ。コミュニケーションや報告・連絡・相談をしっかりと職員間でとることで円滑な保育を進められると感じた。若いからと遠慮せずに積極的にコミュニケーションを図り、連携が取れるように意見を述べたりしていきたい。保育者は子どもにとって一番身近な大人であるため、子どもたちの手本となれるような言葉遣いを心がけていきたい。また、子どもたちの成長に「経験」は欠かせないものだ学んだ。時には見守ることも必要であり、子どもの経験を制限し過ぎないようにしたい。

《今後の自分の課題について》

子どもの経験を制限しないこと、甘えと甘やかしは違うと理解して関わり、否定的な言葉かけではなく、プラスの言葉かけをすることが課題だと感じた。友達とのトラブルなど先回りして止めたくなる場面もあるが、そこでの感情も経験となり、次につながっていくと思った。自分でできることをできないと言ってみたり、保育者が手伝うのを待っていたりすることがあるが、甘えも受け止めながら活動を楽しめるように関わっていきたい。しかし、甘やかしにはならないよう、自分でやってみようと思えるような声かけや関わりも考えていきたい。保育の場面でつい、「ダメ!」などと言ってしまうことがあるが、気持ちを受け止めてからプラスの言葉かけをしていきたい。

(C)グループ討議記録 (第1回目)

研修日	2022.6.15(水)	
講話テーマ	「保育のすてっぴワン！」	
討議課題	・ 今回の研修で学んだこと	・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 鳥海保育園	氏名 村上萌
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの事故報告の際は、慌てたり動揺したりすると保護者が不安になるので冷静に伝えていきたい。また、事故を未然に防げるように努めていきたい。 ・ 子どもにプラスの声掛けをしていきたい。今まで以上に意識して子どもの達成感や自信に繋がるような声掛けを意識していきたい。 ・ 乳児が何を感じているのかを考えながら、温かい雰囲気の中で保育していきたい。 ・ 家庭より園で過ごす時間の方が多い子ども達に、安心できる環境作りができるように努めたい。 ・ 子どもは保育者のことをよく見ているので、良いモデルとしてどんな時も見られているという意識を持って保育していきたい。 ・ 子どもへの注意の仕方について、何度も同じことを注意するうちに感情的になってしまいがちだが、子どもの気持ちに寄り添いながら冷静に諭すように声掛けしたい。 ・ 子どもに感謝の言葉を伝えることを意識していきたい。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだ言葉が話せなくても、乳幼児の表情やジェスチャーに全力で応え、一緒に楽しみながら関わっていきたい。 ・ 見守りの中で成功体験だけでなく、失敗体験も含め、たくさんの経験を子ども達にさせたい。 ・ 散歩のねらいを見直し、ただ交通ルールを守ることや前の子に遅れないで歩くことばかりでなく、寄り道することを楽しみ、子どもと一緒に発見を喜びたい。 		

(D)グループ討議記録 (第1回目)	
研修日	2022.6.15(水)
講話テーマ	「保育のすてっぴん！」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 いわさきこども園 氏名 土田理央
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や子どもにどう見られているか考えながら接していきたい。 ○ 子どもと保護者どちらからも信頼される保育者になるために挨拶や身だしなみ、態度など基本的なことを丁寧に取り組み続けていきたい。 ○ 自分に余裕がなくなると子どもに対して否定的な言葉を使ってしまっていたと今回の研修で反省し、改めて家族のような愛情をもって接することの大切さを感じた。 ○ 安心して預けられると保護者から思ってもらえるよう、職員間で報連相をとりながら家庭での連絡事項を忘れないようにしていきたい。 ○ 保育者は園の印象を決める一番の存在であり、子どもにとって一番身近な大人であるから一つ一つの言動や行動に責任をもちながら保育すること。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども達が主体性をもって遊ぶことの大切さを感じ、保育者が全部用意するのではなく子どもの気付きに親身になって保育していきたい。 ○ 触ったり嗅いだりして五感を刺激する本物体験が子どもにとって重要であることから写真や絵だけでなく用意できるものは本物を用意して感覚を味わえる経験を作りたい。 ○ 満たされるべき甘えや欲求を十分に受け止めて丁寧に関わっていき、今後の子ども達の自己肯定感や受け入れてもらえるという安心感に繋がられるようにしたい。 ○ 子ども達が自然の中で遊ぶことで得られることが多く、ねらいをもった保育をすることの大切さを感じた。 	

(E) グループ討議記録 (第1回目)

研修日	2022.6.15(水)
講話テーマ	「保育のすてっぴワン！」
討議課題	・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 グリーンローズ保育園 氏名 大谷遥菜
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 子どもと関わる中で、つい「ダメだよ」とマイナスな言葉を言うてしまうことがあるが、プラスな声掛けが自己肯定感につながるのだと学んだ。・ 子どもは大人の言動をよく見ているため真似することがあるため身だしなみや言葉遣いなど、子どものモデルとなって関わることの大切さを学んだ。・ 子どもは、大人から受容されることで、信頼する力や自己肯定感が高まり、自立につながっていくこと。・ 子どもにとってすべての経験が学びであるため、行動一つ一つを否定的に見ないということ。端的に優しく伝えるということ。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 活動する中で、トラブルを避けるために保育士が先回りしてやめさせることが多いが、やってみて学ぶこともあるため、様々な気持ちを育てられる活動を行っていきたい。・ 見るものや興味があるものがそれぞれ違うため、一人ひとりの子どもの視点にあったものを用意していきたい。・ 絵本を読む機会が多いのだが、子どもを落ち着かせるための手段になっているので、本来の絵本を読む目的を理解して、子どもと楽しい時間を過ごしていきたい。・ 保育士としてまだ経験が浅いため、先輩の良いところを真似し、教えてもらったことは自分のものにしながら成長していきたい。	

(F)グループ討議記録

(第1回目)

研修日	2022.6.15(水)	
講話テーマ	「保育のすてっぷワン！」	
討議課題	・今回の研修で学んだこと	・今後の自分の課題について
記録者	園名 ナーサリーふじ	氏名 土門明日香
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事外でも保育士として見られているという意識をもって、言葉遣いや態度に気を付けていきたいと思った。 ・保護者対応において、苦情に対しては傾聴の姿勢を大切にしつつも、普段の保育に支障をきたさないよう心の中で折り合いをつけることも大切にしたい。 ・自分の印象が園全体の印象につながることを意識して、言動に気を付けていきたいと思った。 ・子どもたちに伝える際に、否定の言葉やマイナスの言葉を使うのではなく、言い換えてプラスになる言葉やほめる言葉を使うようにしていきたい。 ・保護者に伝える際に、主観を混ぜて話してしまうと誤解を与えてしまうことがあることを頭に入れ、事実を確実に伝えられるよう言葉選びに気を付けたいと思った。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの甘えを十分に受け止め、自己肯定感を高めていけるように関わりたい。 ・人、物など様々なことに興味を持てるような環境構成をしていきたい。 ・就学に向けてという思いが強く、大人になった時の幸せまでは考えなかったが、家ではできない経験をたくさんさせて、将来の幸せに繋げてあげられるようにしたい。 ・子どもが、主体的に学びを深めていけるように環境を作っていきたい。その中で子どもたちが試行錯誤し、失敗した経験も温かく見守り大切にしていきたい。 ・保護者と一緒に、子どもを育てていくという思いで向き合っていきたい。 ・子どもの発達を認め、育ちのショートカットをしないような環境構成、関わり方をしていきたい。 		

第2回 「子どもと関わる人にとって大事なこと」

— 乳幼児保育の理解 —

講師 社会福祉法人恵泉会
中居林こども園理事長
保育総合研究会代表
栴沢 幸苗 氏

1. 指針・要領の確認

【1】総則

○乳幼児の教育及び保育等の総合的な提供

○指針・要領の「目的」

- ① 3歳以上の子どもに対する教育（指針・養護と教育を一体に行う）
- ② 保育を必要とする子どもに対する保育（長時間保育・3歳未満児保育を含む）
- ③ 子育ての支援（指針・子育て支援）*努力義務 こども園は必ず行う

○指針・要領の「目標」

養護を基本とした教育の提供（指針・養護と教育を一体に行う）

- ① 「生命の保持」「情緒の安定」（すべての教育・保育の基本・愛着関係の確立）←基本
- ② 「保育のねらい及び内容（5領域）」
- ③ 5領域を通し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（力）10項目」
- ④ 「育みたい資質・能力」（学校教育における3本の柱）

○指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価

- ・教育課程（こども園）・全体的な計画・長期計画（年・月）・短期計画（週・日）

○評価

- ・施設（第三者評価等を含む）・保育者（保育内容）評価（公開保育等も含む）
- ・こどもの評価（観察の重要性—児童表及び要録）

○特別な配慮を必要とする園児への指導（個別の指導計画—様式の工夫）

【2】ねらい及び内容（子どもの教育について記したもの）

○「教育・保育において育みたい資質・能力」（小学校以降の教育にも繋がる学校教育共通の目的・3本の柱）

- ① 知識及び技能の基礎 ②思考力、判断力、表現力の基礎 ③学びに向かう力、人間性等

○「5領域」（子どもが経験すること。子どもが主体となる領域）

- ① 健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（力）」（5領域の保育の中で育まれる）

ア健康な心と体 イ自立心 ウ協同性 エ道徳性・規範意識の芽生え オ社会生活との関わり カ思考力の芽生え キ自然との関わり・生命尊重 ク数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ言葉による伝え合い コ豊かな感性と表現

*理解しやすいように10の項目に分けた。学校教育3本の柱につながる

【3】専門職としての役割

(1) 人間形成にかかわる仕事（保育士・保育教諭・教師）

- ① 職業として人間形成の場面に関わる仕事 *国から認められ、大きな責任、役割がかかっている
 - ② 文化を伝承する（子育て文化も含む） *日本の子育てでやってきたこと
 - ③ 化学が明らかにしてきた、生きる上で必要な知識と技術を教える仕事（環境・言葉・表現等）
 - ④ それをこども自らが主体的にそれぞれの場面で活用する力を培う（発達を見据えた環境構成の重要性）
 - ⑤ 他の専門職との連携を図り、子どもの健やかな成長を援助する（医療・行政・児相・児発施設等との連携活用） *一人で、または園だけで全部背負い込む必要はない
- *自信がなくても一つ一つステップアップしていくことが大切

(2) 専門職は、職業倫理に基づく自己理解と自己管理から

- ① 高い専門性を持つ保育士等には、児童福祉の理念に基づく職業倫理がある
(乳幼児を一人の人間として尊重し、権利を守る) *生きる、学ぶ、安心を受ける
- ② 保育士一人一人が自己理解に努め、自己管理をしようとする気持ちになる方法を考える
(自分を見つめて、出来ることを見つけ、目標に向かって努力できる人間であることを認める—自己肯定感。私はできる子)
- ③ 自律的で能動的な保育環境を形成（職場環境・保育環境）
- ④ 保育実践や業務を通じて「対話」と「省察」を重ねる
- ⑤ 自らの保育及び園全体の業務のありようを「評価」「改善」
(保育のドキュメンテーション・公開保育)

*大きな声は威圧になる 大きな声が飛び交う→集中力がなくなる

(3) 保育現場における「対話」と「省察」を生み出すプロセス

- ① 共同化（暗黙知を組織のものにしていく…園の保育の考え方が自然に共有されている状態）
- ② 表出化（暗黙知を形式知に変換する…言語化されていない知を可視化する）
- ③ 連結化（形式知を連結する…言葉に可視化した知をつないで共有する）
- ④ 内面化（形式知を暗黙知に落とし込む…いちいち言葉にしなくても身についていく）

園内研修の中で行う

(4) 保育施設職員に求められる専門性（基本的事項）

専門職として保育現場で求められる知識や技能を高め、深め、専門性を高める役割が求められる

- ① 自律性 ② 同僚性・・・を持って継続的な資質向上
- ・専門性の自覚 ・専門性の発揮 ・倫理観及び豊かな人間性 ・子どもの最善の利益を希求し続ける存在

【4】保育者として意識すべきことは

- 心身ともに健康であること ○子どもを愛すること ○笑顔を忘れないこと
○自分の仕事に誇りを持つこと ○そのために自分を高めること ○社会人としての自覚を持つ

- 単なるサラリーマンにはならないこと ○保護者、同僚との関係性について仕事人としての対応を考え、個人的感情に流されないようコントロールする力を持つ
- 子どもにとって自らが最大の影響力を持つ環境であることを忘れない（言動、表情、考え方、服装、大人同士の言葉遣いや関係性）
- 私たちの保育は、良くも悪くも、その子の一生に影響を与え続ける

2. 乳幼児の発達と関わり

【1】発達段階の理解

(1) 指針・要領の組み立てに見る

- 三つの視点 … 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容（こども園）
乳児保育に関するねらい及び内容（保育所）
- 5領域 … 満1歳～満3歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容（こども園）
1歳以上～3歳未満児の保育に関するねらい及び内容（保育所）
- 5領域 … 満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容（こども園）
3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（保育所）
- ※ 学ぶべきことを5つの領域として整理している

- 三つの視点 … 乳児期の園児の保育に関するねらい及び内容（こども園）
（子どもの仕事） 乳児保育に関するねらい及び内容（保育所）

1. 身体的発達に係る視点

「健やかに伸び伸びと育つ」

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力の基礎を培う

2. 社会的発達に関する視点

「身近な人と気持ちを通じ合う」

- ・受容的、応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基礎を培う

3. 精神的発達に関する視点

「身近なものと関わり感性が育つ」

- ・身近な環境に興味や好奇心を持って関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基礎を培う

(2) 基本的生活習慣の重要性を理解（教育の基本となる養護）

基本的生活習慣、成長に見合った適切な生活リズムの保障

↓

信頼が生まれ、その人の行動や考えを真似る行為が生まれる

↓

学びに繋がり、成長過程の知識・技能の獲得に繋がる

↓

積極的に遊べることで、学びをしていることになる

【2】乳児の教育・保育を考える

(1) 愛着の重要性

○基本的信頼関係の基盤と学び

- ・人間は1年早産と言われる状態で生まれてくる(子宮外胎児期)
- ・無条件で受け入れられることで「基本的信頼関係」が育まれる
- ・人を信じる基盤が作られる(周囲の人への信頼の感情)
- ・信頼と希望を持つことは「学び(真似び)」の根本
- ・相互信頼の中で、信・不信を繰り返す
- ・不信の経験を信の経験で塗り替える
- ・これらの経験を心得て、相互的やり取りを身に着ける

(2) 「生きる力」の理念の共有の必要性

○変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は

「基礎、基本を確実に身に着け、いかに社会が変化しようと、

- ・自ら学び
- ・自ら考え
- ・主体的に判断し、行動し
- ・より良く問題を解決する資質や能力
- ・自らを律しつつ
- ・他人とともに協調し
- ・他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力などをバランスよく身に着けること」

【3】乳幼児期の遊びと学びの特徴

- ・観察学習 ・証言からの学習 ・意図、目標、目的の学習 ・利用学習(効率を求める)と探索学習(過程の学習) ・直観的数字の理解(幼児期)と系統的スキルの理解(就学以降の教育に連動) ・注意の幅広さ、多様なものへの興味展開が柔軟な学習(学び)を可能にする

○無自覚の学びから徐々に自覚へ進み、表面的な理解から仕組みの理解へ進む

○色々なものを数える中で、計算と足し算、引き算の基盤が形成される

○体験活動を中心とし、園の環境との出会いから始まる

○一つ一つが繰り返しを通し繋がり、網の目状の知識が構成されていく

(1) 一人遊びと人的環境

①一人遊びに大人が関わることで、遊びの複雑さが増す

- ・放りっぱなしにしない ・関わり過ぎない ・加減を考慮した関わり(専門家←保育士)

②適切な大人の関わりは、遊びのレベルを引き上げ、抽象的思考と言葉の発達を促す

③避けたい関わり方

- ・子どもに多くの質問をする(～だったの? どうだったの? それやる? それでいい等々)
- ・何も言わずにずっと見ているだけ

・遊びを支持しようとする（子どもに考える間を与えず、次々と指示）

④ ③から生じる状況は、試行することを面倒がる、抽象的遊びが少ない、集中力や根気強さがなく、知識を獲得し、問題解決に至らない

※大人との遊びは、知能の発達にとって明らかに重要。「子どもと一緒に遊んでね」と言われる所以

（2）保育士と子どもの関係性

①乳児：幼児期に安心して失敗（試行錯誤）できるような信頼関係を育ておく時期。

- ・エリクソン「基本的信頼」 *失敗も学び
- ・この人は、自分に応答してくれる人だという感覚。

③ 幼児：子どもどうしの基本的信頼（久保教授）

日案よりも、ハプニングを2分間だけ優先する。

- ・2分間の間に「助けようとする」その気持ちが通じ合う。

④ 男女の言語発達傾向の差にも考慮（お茶の水大学名誉教授内田伸子先生幼児言語の研究資料）

- ・「物語型」 VS 「図鑑型」 *男女で育ちの特徴がある

- ・女子…80%が社会性が早く発達する傾向

60%が挨拶・感情表現語 → 人間関係に敏感 → 「物語型」ままごと遊び

40%が名詞

- ・男子の80%が獲得する能力が高い傾向

95%が名詞 → 物の動きや因果的成り立ちに敏感 → 「図鑑型」(図鑑やブロック)

5%が動詞

（3）アクティブ・ラーニング（こども主体的な保育）を通した学びの5段階

子どもが自ら遊びを創り出し、遊びに没頭し、遊びを振り返るといった遊びの過程の在り方が明確にされた（体験から学ぶ無自覚の学びを自覚化する←保育教諭）

- ・学びの5段階（久保教授）

1. やりたい
2. やりたいけどできない、できないけどやりたい
3. やった！ できた！
4. いつでも、どこでもやりこなせる（個人）
5. できるようになったことが周囲に波及する（個人対他者）

- ・最近接発達領域（発達の最近接領域・ヴィゴツキー）

現在の成長段階より高度な発達を目指したとき、努力と工夫により達成可能な近接する発達の領域をいう（もうちょっと頑張ったらできるよ）。この領域を達成し積み重ねて成長する

（この領域の環境設定がこども自ら成長する引き金になる）

- ・生涯に渡る生きる力の基礎を育てる

直接教示（保育士から一方的に教示）と自由保育（主体的）の間が教育効果大である

【4】 観察の視点 ⇒ 子どもをよく見て見極めましょう！

- ① 「保育者の援助」・ 子どもが自ら考えるような言葉がけ 発達を足し算で見上げる
 - ・ 保育者が笑顔か
 - ・ 肯定語、誘い語、疑問語、提案語が多いか
 - ・ 環境（人的、物的）と繋ぐ援助が見られるか
 - ・ 予測と異なる子どもの反応等を歓迎するか
 - ・ 発達を踏まえた援助ができていますか
 - ・ 個別援助と集団援助ができていますか
- ② 「環境について」・ 大人がやってあげる
 - ・ 安心、安全、居心地の良い、温かい環境
 - ・ 自分の場と感じられる、自分が発揮できる環境
 - ・ 五官の発揮、完成を育む環境
 - ・ くつろぎ、集中できる、コーナーの環境
 - ・ イマジネーションが膨らむ、十分な教材と空間
- ③ 「実践について」
 - ・ 思考をさほど要さないルーティンが多すぎないか？
 - ・ 画一的すぎないか？
 - ・ 子どもが没頭して遊んでいるか？
 - ・ 自分の意見や個性を出し合っているか？
 - ・ 子どもが主体的か？（自分で選んだり、決めたり）
 - ・ 子どもの育ちと、学び、発達に適した内容か？
- ④ 「雰囲気について」
 - ・ 子どもは幸せそうか？ 笑顔か？
 - ・ 居心地が良さそうか？
 - ・ クラスや先生に、威圧感はないか？
 - ・ 子どもにさせられている感はないか？（子どもが主体的に関わっているか）
 - ・ 「・・・していい？」と許可ばかり求めているか？ ⇒ 「どうしたらいいかな？」
 - * 不安な子・ 話を聞いていない？理解出来ていない？全部に正解を教えない
 - ・ 保育者や友達の顔色を過度に窺がっていないか？⇒母親の育休中に起こりやすい
 - * 自己肯定感を育てる・ 自分はここにいていいのか 生きていていいのか

<参考>

乳幼児の運動と発達（成長）は切り離して考えられない感覚・運動的な反応が乳児にとって最初の情報源であり、感覚・運動的な行動が知識獲得で重要な役割を果たす。感覚・運動的な反応が思考の基盤となる（ピアジェ）
このことから人や物との応答的関わりが重要とされた

- ① 意図的な行動としての運動は、外界に働きかける効果器として、意志の実行機関であり、知的活動の表れである
（例 歩行という機能の完成は子どものモビリティ（移動力）を高めることで認知機能にも変化が生じる。モビリティの獲得は子どもの内部の変化だけでなく、子供を取り巻く養育者などの環境を含めたより広いシステムをも変えることになる）
- ② 運動の発達は、発達（成長）の基礎的要素として必須のものとして存在しているが、運動は発達の非常に早い時期に他の機能の構成要素として組み込まれて見えなくなる
 - ・ 例…コップを持って水を飲む、行きたい方向へ移動する等、生活の中に常に存在する運動行動
- ③ 運動は外界を捉える知覚と外界に働きかける操作のカップリングである
- ④ カップリングが作り出す認知構造こそが、人間としての種々の社会的行動発達の基礎になる
（例 ポインティング（指さし行動） 指の屈曲と伸展の状態が他者との関係における意味の伝

達という社会的な行動にまでつながっている)

<演習課題> *下記のことについて、グループ討議を行った

1. 最近の乳児の育ちや子育てについて気になったことや問題点を書きだし、園や保育者がどう支援すべきか個々に書き出し、グループで話し合ってみましょう。
2. 保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点をグループで話し合ってみましょう。
3. 乳児保育に関わり、嬉しい子どもの成長が見られたこと、今後保育に取り入れていきたいことがあれば書いてください。

記録 研修部 菊子恵美

(A)グループ討議記録

(第2回目)

研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	・気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか ・保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 南鷹巣保育園 氏名 金 梨紗
<p>《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》</p> <ul style="list-style-type: none">・食わず嫌いの子・・・料理が面倒な保護者で家では惣菜を食べている。その為給食を食べない日が多い。量を減らしたり、1口食べる事が出来たら褒めていくようにしていく。・指先が未発達・・・保育園でハサミや紐通しなど指先を使った遊びを取り入れていく。・保育園で生活習慣を身に付けて欲しいという家庭が増えている…子どもの園での様子を伝えながら家庭でもやってもらうように協力体制を作っていくようにする。・朝ご飯を食べない子・・・朝ご飯がチョコやスープの子は朝から機嫌が悪く、朝食を食べない分、給食は喜んで食べ完食する。その事を保護者にも伝えていく。 <p>《保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点》</p> <ul style="list-style-type: none">・アレルギー反応が出た子→園での様子を伝えたが「病院で大丈夫と言われたので保育園でも食べさせてください」と言われる。アレルギーの怖さや園での対応を保護者に伝え話し合うようにしている。・保育園では支援が必要だと思っている子→保護者の方は、問題ないと思っている場合、どうやって伝えたら良いのかが分からないが、保護者の方と面談をしたり、や気になる姿や行動が見られた時は、伝えていくようにしている。・コミュニケーションが苦手な保護者→最初は連絡帳で子どもの様子を聞いたり園での出来事を伝えたりしていくようにした。少しずつ慣れてきたら降園時に出来事を話すようにしていく事で、保護者の方からも話をしてくれるようになった。	

(B)グループ討議記録 (第2回目)	
研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか ・保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 ナーサリー小鳥の木 氏名 小野寺 慈
<p>《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube や TV の時間が長くその影響から言葉遣いが荒かったり、ふとした時に口調がきつくなることもある。 →気になる口調や言葉遣いはその時に言葉かけをしている。 ・なかなか歩行が安定しない。母親は忙しそうで送迎の時は毎日抱っこをしている。 →手をつなぐと歩くことができるので、『帰りの時間に少し歩いてみてはどうか』などの言葉かけをする予定。 <p>《保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関対応の時に布団を忘れていた保護者に「今日はお布団を持ってきていないのですか？」等と聞いたところ、後日連絡帳に『強く言われた』と書かれていた。 →自分では強く言っていなくても受け取り方はそれぞれ違う。担任以外の保育者でも対応できるように、連絡・報告・相談を全体で行うべきだと考えた。 <p>※難しいと感じた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シングルマザーの家庭で、母親は連絡帳を書いてくることなく、お迎えは祖母のため、母親と関わるのが少ない。どのように関わりと良いか。 ・登園の時に保護者と離れるのが嫌で泣いている子の対応。降園の時に子どもの姿を伝えたいが思うように言葉が出ず伝えられない。 	

(C)グループ討議記録 (第2回目)

研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか ・ 保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 大曲東保育園 氏名 遠田 雛子
<p>《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はいはいをせず歩くなど、発達過程を飛ばしていく子が多い傾向にあるため、はいはいをしたくなるような環境作りをしている。 ・ 猫背の子、寝ながら遊ぶ子など体幹の弱い子が多い傾向にあり、体幹を鍛える体操などを取り入れ、おたよりで知らせ家庭でもできるようにしている。 ・ 市販の離乳食を頻繁に食べているため、咀嚼力が弱い子がいるので、園の離乳食を写真で見せたり、噛む玩具を取り入れたりしている。 ・ オムツを叩いて排尿をしたことを知らせる子の保護者が、オムツを触る行為が嫌だという。尿意を教えている姿であり、成長の一つであることを伝え、成長に気が付けるように言葉かけをした。 <p>《保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対策で玄関対応をしており、保護者とじっくり話す機会が少ないため、話を聞いてもらいたい保護者がいたが、自分一人での対応になることが多く不安なこともあった。職員間で話の内容を共有したことで、傾聴の姿勢を忘れず自信を持って対応できるようになってきている。 ・ 連絡帳に、子どものマイナスな姿をよく記入してくる家庭があった。園での子どもの良い姿を記入し続けたことで、保護者も安心し少しずつ子どもの良い姿も見られるようになり、連絡帳の内容も変わってきている。 ・ 家庭で食べないことが不安に感じていると思い、園で完食した時に報告すると頑張っていて食べなくていいと言われた。保護者との感覚のずれがあり難しいと感じる。 	

(D)グループ討議記録

(第2回目)

研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか ・保護者との関りで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 西仙あおぞらこども園 氏名 瀬野 裕佳

《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》

- ・YouTube やテレビの影響を受けている子どもが多い。
情報を得るかも求められている中で、少しのメディア活用は必要だが、それだけにならないように園での遊び、手作り玩具の作り方などを紹介していく。
- ・1歳半からイヤイヤ期に入り、好きなものしか食べない子どもがいる。
家庭と連携し、家庭での食事について聞くなど、情報共有を行う。
- ・第2子が生まれたことで母親との触れ合いの時間が減り、情緒が安定しない。
園では安心するまで関わり、思いに寄り添い、できるだけ甘えを受け止めていく。
また、子どもの姿や共に触れ合う時間の大切さを伝えていく。
- ・戸外での遊びが控えめで、固定遊具や玩具に興味を示さない。家庭でもコロナの影響もあり、公園に行く機会が減り、行っても安全面から遊具で遊ぶことを止めてしまっていると伝えられた。
- ・週6日登園のため家族と触れ合う時間やのびのびと体を動かす機会を家庭でもとってみると良いのではないかと提案する。

《保護者との関りで難しいと感じた点や解決について努力した点》

- ・子どもの姿の伝え方、例えば良い姿を伝えつつもりが悪い姿に捉えられる。捉え方が違うことを理解し、他の保育者の伝え方も学ぶ中で、自分の思いも伝える。
- ・園では漂白剤を使用していないが保護者に衣類の色が抜けていると言われた。
話を聞き、確認をとる中で謝罪をし、保育者間でも共通理解する。事前に色が抜けていないか衣類のチェックをする。
- ・会話が続かなかったり、話を聞いてもらえなかつたりすることがある。
適度に保育者から話しかける機会を設けていく。些細なことでも良いことを伝えていくようにする。
- ・半年前に糖尿病と診断されたお子さんがいるが、保護者が事実を受け入れられずにいる状態で、食事や尿の量について相談しても聞いてもらえない。
保育者は医学的な知識はないため、園医に相談したり保護者と何度か面談したりする中で、子どものためにも園での生活について相談していく。
- ・下痢が続いている中での登園。感染症ではないがその子はぐったりしている。
集団生活であることを理解してもらい、子どもの姿をこまめに伝えていくと共に、家庭での様子も聞きながら様子を見てもらえるように話していく。

(E)グループ討議記録 (第2回目)	
研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきかか ・保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 旭保育園 氏名 齊藤詩歩
<p>《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》</p> <p>自宅での過ごし方として、最近はテレビやYouTubeを見て過ごしている子どもが多く、遊具に興味を示さなくなっていることや、乳児クラスでは後追いがひどく、近くに保育者がいないと泣いてしまう子がおり、スキンシップの取り方について悩むという意見が出た。メディアに興味関心が移っている事については、子どもに合った遊びを提供する事・物的環境を整えていく事が、保育者にとって必要な支援なのではないかという意見が出た。また、子どもとの関わり方については、その子一人と十分なスキンシップを取りたいが、他の子どもたちにも目を向けなければいけないという葛藤がある。少し離れた距離からでも「見ているよ」という気持ちを伝える為に、言葉や表情で温かみのある関わり方ができればいいのではないかとこの事だった。事例は、一人ひとり違ったものの、保育者に出来る支援としては、子どもを一番に考えた関わりが重要だという意見が共通していた。</p> <p>《保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点》</p> <p>子育ての悩みとして話を聞く場面や、保護者の方と話をする際の自分の立場での関わり方について悩むという意見が多かった。アドバイスをする立場ではあるものの、経験年数も短く保護者の方よりも年下であるという点で、関わり方が難しいという思いが大きいが、その点を一番の自分たちの強みに出来ればいいのではという意見が出た。明るく笑顔で接する事で保護者の方からも話しかけてくれるようになったという経験が多かった為、信頼関係を築いていく上でとても大切な事なのではないかとこの事だった。また、先輩の先生方の助言を求める事も大切だという意見も一致した。</p>	

(F)グループ討議記録 (第2回目)	
研修日	2022.7.8(金)
講話テーマ	「子どもに関わる人にとって大事なこと」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか ・保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点
記録者	園名 聖園ベビー保育園 氏名 松本 綾音
<p>《気になったことや問題点、園や保育者がどう支援すべきか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児の保護者。タブレット等で動画を見る時間が長く、玩具での遊び方がわからない。家庭で触れ合う時間が少なく、何をして遊べばいいのかわからないとのこと。 →保育園で興味を持っている玩具を見せ、実際の保育士がしている言葉かけなどを伝えることで送迎時の会話も増え、子どもの様子を共有し、遊べるようになった。 ・保育園で出来る身の回りのことを、家庭ではやらないとのこと。 →家庭では甘えたい気持ちが強く出るのだろうと伝え、大げさに褒めて達成感を感じられるようにしたり、短い時間でも一対一でスキンシップをとったりしてたっぷり甘えられると嬉しいだろうと伝えた。 <p>《保護者との関わりで難しいと感じた点や解決について努力した点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園時大泣きする子どもと母がすっきり別れられるようにしたいとのことで、玄関からすぐ立ち去るようにしていたところ、母から、今度は引き離されるようで辛いとの声があった。職員間で話し合い、母の姿が見えなくなるまで見送ることにしたところ、本人も母もその状況に慣れて、泣かずにバイバイできるようになっていった。 ・園生活の中で傷を作ってしまったときは、職員間で共有し、詳細を丁寧に伝えるようにすることで理解してもらえるように努力している。 ・提出物が期限内に揃わないことの多い家庭に、玄関で毎回期限を伝えていたところ、その様子を見た別の保護者から、「なぜ自分たちにはしてくれないのか」と、クレームが入った。コロナ禍での玄関対応の際、他の保護者がいる中で特定の保護者を引き止めたことは良くなかったと反省し、場所を変えたり、付箋で目立つように貼ったりするようにした。 	

第3回 「赤ちゃんの発達とアタッチメント」

— 非認知的な心の発達を支え促す保育 —

講師 東京大学院教育学研究科 教授
同附属発達実践政策学センター長
日本学術会議会員（第一部会）
遠藤 利彦 氏

【心の力の発達にアタッチメント（愛着）重要】

・「ライナスの安心毛布」

スヌーピーが登場する漫画の登場人物ライナスがいつもブランケットを肌身離さず持ち歩く姿から、人が物などに執着している状態。

「お気に入り」や「愛着」。乳幼児は何か執着することで安心感を得ている。欧米では7～8割の子どもに「ライナスの安心毛布」があり、日本は3～4割の子どもにある。有る無しはその後の子どもの発達に違いはない。

・「アタッチメント」

子どもが怖くて不安な時、特定の大人にくっついて安心感を得る事。
身近な大人との関係が、赤ちゃんの基本的な発達のカギを握っている。

・育児、保育で大切なのは、大人と子どもの「ほどよい関係性」（完璧ではない関係）

↓

自分の思い通りにならない、適度なストレス・フラストレーションにさらされることが心のたくましさを育てる良い環境

〔人工乳や時間決め方の授乳の子、一人部屋か保護者と別の布団で寝る子
出生間隔が短い兄弟の上の子等〕

↓

嫌な状況から自ら抜け出ようとする

↓

「ライナスの毛布」的なタオルやぬいぐるみの力を借りる

↓

自分の心をコントロールする力、逞しさを育む

※ 完璧な関係、環境で子どもが良く育つとは限らない！

【 子育て・保育のあり方 】

- ・子育て、子育てにたった1つの理想形はない。
- ・保育士、子ども共にいろいろな個性があり、個性には強みと弱みがある。
それぞれの個性の強みを生かし、目の前の子どもの個性の強みを最大限に伸ばすためには、大人が共通して心しておくべき基本の一つがアタッチメント。

【 コロナ禍における子育て・保育 】

- ・保育者がマスクをしていても、目のやり取りだけで感情伝達は十分可能。
- ・「目は口ほどにものを言う」
目は最も効果的なコミュニケーション・ツールである。
人間の目は白めの部分が多く、黒目とのコントラストで視線の動きを伝達する。
黒目の動きだけで相手が何を見ているのかわかる。積極的に自分の目を相手に見せて、自分の心の状態を相手に読ませるための装置。
- ・眉毛の動きや目の見開き方、瞳孔の開きなど表情筋の動きで話し方、声の調子、身振り手振りからも感情は伝わる。
- ・子どもと目を合わせ、言葉かけを行う。
- ・子ども集団と複数の保育士がいた場合の話しかけ方は、宛名、差出人をきちんと伝え、誰が誰に対して話しているか子どもが分かるように心掛け言葉を届ける。
宛 名 = 子ども 「〇〇ちゃん or みんな」
差出人 = 保育士「〇〇先生だよ」

【 生涯発達における乳幼児期の意味

～縦断研究が示すアタッチメントの大切な役割～ 】

- ・乳幼児期のアタッチメントの剥奪は、自己と社会性の発達に長期的ダメージが有り物理的に環境条件がそろい生理的欲求が満たされていても、アタッチメントが経験出来ないと心と身体が健康に成長できず、脳が委縮することもある。
- ・貧困層の子どもを、3歳から2年間幼稚園に通うグループと通わないグループに分けて成長を比較。40歳の頃のデータでは幼稚園に通ったグループが経済的に豊かで安定し、幸せの度合いが高いという結果がでた。
- ・幼稚園に通ったことで認知能力だけでなく、家庭で経験出来なかったアタッチメントを園で経験することで非認知能力が身につき、心の「土台」がつくられた。
- ・自己と社会性の心の力（非認知）を育むゆりかごとして重要なアタッチメント。
- ・高度な学校教育も確かな「土台」の上に積み上げられてこそ確実に伸張する。

※ 非認知能力について学べる動画「Cedep」 ホームページで視聴可能

【 アタッチメントと安心の輪 】

- アタッチメントは単なるスキンシップ（皮膚接触）とは異なる。
一日何回も繰り返される至極当たり前のことが、いかに確実に安定して経験できるかが生涯に亘る心身の健康な発達の鍵になる。
- 危機との遭遇 → ネガティブな情動経験（恐れ・不安・欲求不満等） → 「安全な避難所」への近接（アタッチメント） → ネガティブな情動の調節/燃料補給 → 「安心基地」からの探索・遊び → 危機との遭遇
- 「安全な避難所」 → 大人は崩れた感情に寄り添い共感的に受け止め、感情を立て直し、安心感を回復させる。
- 「安全の基地」 → 大人は安心感を得て元気になって子どもの背中を押し、また一人で探索や冒険に向かっていけるように応援し、離れた所から見守る。
- 「避難所」「基地」の役割をバランスよく保ち安心感の輪が広がっていくことで、子どもの成長・発達に繋がっていく。
- 何かあった時「絶対に戻れる所」として、変わらずに有り続けることが重要な役割。

【 アタッチメントの個人差と心身の発達 】

- 子どもは親が自分にどう応じてくれるかに合わせて、安心感を維持できるように自分のくっつき方を徐々に調整し始める。「安心感」の回り方に個人差が生じる。
安定型（温かい受容的な養育） → 安心感の輪を安定して回る
回避型（やや否定的養育） → 泣くと親からもっと遠ざけられる為泣かない
アンヴィレット型（やや気まぐれ養育） → 後追いやしがみつきが強い
無秩序・無方向型（不適切な養育、虐待等）
→ 親にくっつきたいのかどっちつかず、親を怖く感じたり虐待と関連有り
- 回避型、アンヴィレット型は親が対応の改善をすることで安定していく場合有り。

【 質疑応答 】

- Q. 2歳児で昼寝中おしゃぶりがないと眠れない子に、おしゃぶりをやめさせる効果的な言葉かけは？
- A. 年齢的にまだ無理に取り上げる必要はない。睡眠儀式が誰にでもあり、興味を別のものに変えていく。（安らぎを得られるもの）
- Q. 3歳児になった子が愛着障害による自閉症と診断された。園生活の中では愛着障害や自閉症を感じられなかった。
- A. 愛着障害による自閉症は考えにくい。自閉症傾向で愛着障害が発生する場合はある。潜在能力を持っている子どもだったのではないか。園では居心地が良く安心

- し、家では親の子どもに対する思い込みでの接し方で不安定だったのではないか。
- Q. 保育中、褒めることで意欲的に取り組めるようにしていたが、外発的動機付けだったと反省。今後保育をどう進めていけばよいか。
- A. 頑張ったことに対して褒めることは効果的。具体的に褒めることで自信に繋がる。子どもが見てとアピールしたら見て褒め、評価する。希望を持たせる。後押しをする。
- Q. 若い保護者の方が、赤ちゃんのあやし方が分からずすぐ、携帯などでユーチューブを見せてしまうようです。そのような保護者にアタッチメントの大切さのしらせかたは、どのようにしたらよろしいでしょうか。
- A. 時代的に仕方がないが頻度にもよるので、時間を決めて子ども一人で見させない。親子で一緒に見て会話を交わす。コミュニケーションにはプラスになる。
- Q. おんぶでなく、また、対面の抱っこでもなく、同じ方向を見て赤ちゃんを抱っこしている保護者をよく見かけますが、子どもの発達において影響はないでしょうか。
- A. 対面のコミュニケーションが取れているのであれば、前向きでも支障はない。同じ方向で同じ物を見ているので共同注意（指さし）のコミュニケーションができている場合はプラス。常に視線を合わせなかったり、会話がなければマイナス。
- Q. 赤ちゃんの頃から夜中何度も夜泣きしたり、目を覚ましてたりしている子が、年少児になっても夜中2～3回泣いたり、目を覚ましていました。母親と寝ているのですが、夜泣きや覚醒が頻繁な子は、愛着に何かしらの不安があるのでしょうか。
- A. 子ども自身の個性と捉えた方が良いと思うが、夜泣きを親がストレスに感じて子どもを否定しないように、保育士が保護者を応援できれば良い。
睡眠は（連続10時間の保障）発達に大きな影響を及ぼすので、医療機関を紹介しても良い。
- Q. 年長児になっても洋服の襟や裾をかじっている子がいます。かじっていることで安心感を得られているように思いますが、びしょびしょになるため、やめさせたいです。母親が忙しく「寂くさせている」と自覚しています。どのように対処することが良いのでしょうか。
- A. 子どもなりに心を落ち着かせるためにとっている行動ということを理解する。度が過ぎると衛生面が心配なので、5歳児は言葉で理解できるのできちんと言葉で伝える。無理やり取り上げたり叱らず、お気に入りのものを代替手段として与える。また、何かやりたい事、嫌なことがあったら保育士に話すように伝える。時間を掛けながら、就学に向け子どもの状況を見て対応していく。

記録 研修部 竹内るり子

第5回 「遊びから生まれるアート」

講師 ARTIST GOMA

【 ARTIST GOMA 】

青森県弘前市出身。東北女子短期大学卒業後、保育士となり保育の仕事に携わる。その後、絵の勉強のため秋田公立美術短期大学に入学。プロのアーティストとして活動する。[株式会社 GOMALABO] 創設者。全国でのライブアート、大学や専門学校の講師、保育園から高校までの絵画教育、保育士のための絵画講師としても活躍している。日本では様々な企画・運営に携わり、『世界の果てまでイッテQ』『ナニコレ珍百景』『ニノさん』等のテレビの取材、出演多数。『ミラノサローネ APPLE DESINAOERD 世界第2位審査員特別賞』『国連宇宙週間 コラボ展示会 MOON 開催』等海外でもアーティストとして幅広く活躍中。

ADHD 発達障害と読字障害を持っているため文字は凶形に見える。印刷文字（教科書等）は読めない。電子文字（iPad、パソコン等）は読める。

【 子ども達の輝き、可能性の引き出し方 】

- ・アートは無限大。発想、道徳、理念、宗教、様々なものがそこにある。
- ・子ども達の発想は豊かで素晴らしい。
- ・2, 3歳児の描く絵が純粹無垢で本当のアートではないかと言われている。
- ・子どもの発想をどうやって膨らませていくかが保育士の役割。
- ・2, 3歳を過ぎると色々な知識が入って固定概念が生まれる。
(うさぎの耳は2本で長い、サンタクロースの服は赤色等)
- ・保育士は子どもの目線になってと言われるが、大人は固定概念がうえつけられ、恥等が入り、発想豊かな子どもの目線になるのは難しい。子ども達の発想に近づこうとすることが大事。
- ・保育者が文化・芸能・歴史の知識をつける事で、幅広い指導が出来るようになる。
- ・1日10分子ども達のワークショップや製作の様子のYouTubeを見ると、1日1つの知識が増え、自分自身のスキルアップに繋がっていく。
- ・子どもの主体性を大切に、自由に作ったり描かせる。子どもが楽しんで取り組む姿が1番大事。

【 子どもたちの個性ある作品作り → 遊びが先に立つ 】

- 材料を準備して方法（ルール）だけ伝え自由に遊ばせる。何を作っているかはわからずともその作業を楽しめれば良い。
- 子ども達にやらされている感があるてはならない。
- 作品名は後付け。色々な発想がある。
- 子ども達の作品に保育士が少し手を加えることで季節を感じることも出来る。
七夕；子ども達は色遊びを楽しむ → 保育士が少し手を加え七夕飾りの完成
- 子ども達が楽しく活動ができる環境を整え、大人がどこに手を掛けるか考える。
- 0, 1歳児は、感触遊びを十分に楽しませる。
- 製作活動は一日で完結させなくて良い。保管して再利用も楽しい活動。



【演習：ぐちゃぐちゃアート】

- ① 画用紙に好きな色で20秒ぐしゃぐしゃ描きをする
 - ② ぐしゃぐしゃ描きの中から動物や、形を見つける
 - ③ それぞれ見つけた形を発表する
- } 脳を軟らかくし子ども
} の発想に近づける

【グループ討議；GOMA さんへの質疑応答】

- Q. 絵の具を数色使用する場合気をつける事は？
- A. 同系色を使用すると混ざり合っても汚い色にはならない。混ぜることを楽しんで
いる子には意欲を止めないために別の紙を準備する。協同製作で、自由に色塗り
する時は2人ずつ順番に行い、待つわくわく感を味合わせる
- Q. 手形足型を行う際、適している絵の具は？
- A. アクリル絵の具。蛍光塗料と絵の具を混ぜ合わせても良い。
- Q. 製作に夢中になっている子どもに、給食や次の活動を知らせるときの声かけは？
- A. 好きにやらせる環境が望ましい。別室に移動し続けることもできる。
- Q. 製作が嫌いな子に楽しませる方法は？
- A. 保育士が楽しむ姿を見れば興味を持つのではないか。
絵の苦手な子には一緒に描いたり、上手じゃなくても良いことを伝える。
- Q. ぐちゃぐちゃアート以外に脳を軟らかくする方法は？
- A. 星を見る。森や海に行く。自然の枝や漂流物を探す。

【GOMA さんより】

- ・製作活動後に子どもから「終わったら遊んでいい？」と聞かれる製作は、子どもにはつまらない活動とされているため、その活動は失敗だと思ったほうが良い。
- ・「可愛い」の本質とは何か。人それぞれ可愛いと思う感覚は違う。可愛い・可愛くない どちらも疑っていく。正解も分からない。
- ・保育士は子どもの描いた絵に余白があると、埋めさせようと言葉がけをしがちだが、必要のない言葉がけである。余白が多い子には、小さい画用紙に描かせてたりしても良い。
- ・小学校に入学したら必然的にみんなが同じことをしなければならなくなる。
保育園時代にこそ子ども達に自由に表現できる活動を経験させて、子ども達の輝き、可能性を引き出して欲しい。
- ・失敗しない人生は、その人生自体失敗。失敗しないと高見を目指せない。失敗することで成功体験を得ることができる。失敗を恐れずに活動をしていければ良い。

記録 研修部 竹内るり子

(A)グループ討議記録 (第5回目)	
研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 みつば保育園 氏名 三浦 美砂希
<p>〈今回の研修で学んだこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品がさきになる制作をしてきた。保育雑誌に頼りきっていた。保育士の技術があるから楽しめることに改めて気づくことができた。 ・ 指先が苦手な子にはボールを使うなど道具を使った制作が楽しめる。 ・ 季節の制作をしなくては！と、目的が先になってしまっていた。遊びから制作へと繋げていきたい。 <p>自分がやりやすいからと教材に頼り切ってしまうが子どもが楽しめるように自分の技術を増やしていくのと、指先を使うことが苦手な子や月齢の低い子には身近なボールを使って制作をすると楽しめることがわかった。</p> <p>〈今後の自分の課題について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学びへとつなげていきたい。・ みんなで一つのものを作っていきたい。 <p>遊びの延長で制作へと繋げていき楽しいと思えるような制作をとりいれていきたい。また大きい画用紙を使ってダイナミックに絵具を使い感触や色が混ざっていく様子をみんなで味わえるように一つのものを作っていくのも楽しいのではないかと思った。</p> <p>子どもから「これ終わったら遊んでいい？」と言われるような制作活動にならないように「楽しい！もっと」と言ってもらえるような制作を考え、大人からの「かわいい」や「これはなに？」と言われることを気にせず子どもが楽しめる制作をしていきたい。</p>	

(B) グループ討議記録 (第5回目)

研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 浅舞感恩講保育園 氏名 藤肥 泉弥
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 自分の保育を振り返ると、目的をもった制作がほとんどだったが“制作のための活動ではなく遊びの中からの作品を”という話をきいてそんなやり方もあるのだと学ぶことができた。・ 今までには保護者に見せるために、制作等かわいくしようと思うことが多かったが、誰のための制作なのかということを考えたときにそれはいらぬことだと分かった。・ 何よりも保育士自身が楽しむことが大事だと気付かされたので、自分が楽しんでいる姿を見せながら一緒に楽しく制作できる環境づくりをしていきたいと思った。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none">・ 制作において大人の固定概念は邪魔になってしまうと分かったので、今後は固定概念にとらわれ過ぎずにやりたいと思うことをやっていきたいと思った。・ 正直、失敗してしまうことが嫌だと思っていたが、失敗してもそれも一つの経験となり次の成功体験につながるという話があったため、失敗を恐れずに何でも挑戦していきたいと思う。・ 普段の様子をよく見て何に興味をもっているのか、何が好きなのかを知ったうえで子ども達が自由に表現できるようにしていけたらいいなと思った。	

(C)グループ討議記録 (第5回目)	
研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 ウェルビューいずみこども園 氏名 安田 奈菜
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字が読めない子が増えてきているなかで、文字だけでなく、イラストや色で表現できるともっと生きやすい世の中になる。 ・ ユニバーサルデザインを増やしていくことで、体の不自由な人のためにも役立つこともできる。 ・ お絵かきの時、色やスペースにとらわれないこと。感性や想像を大切に、子どもたちが楽しいと思えることをやらせてあげたいと感じた。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作ることを目的とせず、制作することの楽しさを感じられるように援助や関わりを大切にしたい。 ・ 0歳児だからではなく、年齢に捉われずに感触遊びや、絵の具などを使った制作遊びを取り入れていきたい。 ・ 子どもたちの「やりたい」「やってみたい」の思いを止めずに、一緒にできる環境構成を大切にしたい。 ・ 集中している子がいたら、最後までやらせてあげたり、出来る範囲で時間を用意して子どもたちの思いに寄り添った関わりをしていきたい。 	

(D)グループ討議記録 (第5回目)	
研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修で学んだこと ・今後の自分の課題について
記録者	園名 こどものくに保育園 氏名 武藤 美希
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <p>今までは大人が準備して作品が先にたつものを行うことが多かったが、今回の研修で子どもが主体となって遊びながら制作をすることの大切さを学びました。誰のために行っている制作なのかという問いから、子どもが楽しんで行える子どものための制作が大切だと感じました。ぐじゃぐじゃに描いた線から絵を見つける発表を聞いて一人一人違って面白く、そういった個性や考え方を大切にしたいと思いました。制作では身の回りにあるもので簡単に作れるという事を学びました。絵が苦手だと思っている子へのアプローチとしては、まず先生が楽しむということが大切だということを知りました。</p> <p>《今後の自分の課題について》</p> <p>遊びを意識して、子どもたちが楽しいと思えるような制作を行いたいと思いました。子どもたちの自由な発想や個性を大切に、それを守る保育者でありたいと思います。紙コップで作る影のアートや、お花紙で作るランタン、絵の具での色遊びなど、皆で作るアートがとても楽しそうだったため子どもたちと一緒に作ってみたいと思いました。今までは、「何作るの?」「何になるの?」と完成形を確認するような質問をしていたが、制作している工程自体を楽しめるような制作内容を考え「楽しいね。」と子どもと一緒に楽しめるような保育を行いたいと思いました。保育雑誌の中から壁面を大人が作ることが多かったが、今後は子どもたちが作ったものの中から大人が手を加えて作品を作って飾るような形にしていきたいと思いました。</p>	

(E)グループ討議記録 (第5回目)	
研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の研修で学んだこと ・ 今後の自分の課題について
記録者	園名 まつばら保育園 氏名 近江谷 向日葵
<p>《今回の研修で学んだこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具がたくさん無くても作品やアートは作ることが出来る。 <p>(例)紙コップでタワー作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化や行事に関するものを制作に取り入れる際は、保育士自身が文化や行事に関する知識を前もって調べておくことが大切。 ・ 怪我や事故につながらなければたくさんの経験や体験のためにも様々なことに挑戦させてみるのが大切。 <p>→失敗があっても当たり前であり、失敗を経験したからこそ成長していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児であってもアートを作ることが出来る。 <p>《今後の自分の課題について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの自分の保育を振り返ると、大人の固定概念を子どもたちに押し付けてしまうことが多くの場面であった。アートは無限大であり、今は何でもアートになる時代であるため、子どもたちが持っている自由な発想・表現を大切にしながら作品作りを行っていきたいと感じた。 ・ 制作を行う上で好き嫌いがあるため、苦手な子や嫌いな子に無理させずに少しでも楽しさを伝えるためにはどうしたらよいのかと質問をした際に、保育士自身が楽しむことが大切であり、楽しむ様子を見せることが大事だと教えてもらったので制作を行う際は意識して行っていきたいと感じた。 	

(F)グループ討議記録 (第5回目)

研修日	2022.11.11(金)
講話テーマ	「遊びから生まれるアート」
討議課題	・今回の研修で学んだこと ・今後の自分の課題について
記録者	園名 大曲北保育園 氏名 照井 ことみ

《今回の研修で学んだこと》

- ・今までの自分の保育を振り返ってみると、保育者が主体となった制作活動がほとんどだった。そのため、制作が終わると「終わったから遊んでいい？」という声もあり、つまらない活動を作ってしまったことに気づくことができた。子どもたちが楽しんでいる遊びから制作ができることを学んだ。
また、壁面は誰のためのものなのか学ぶことができた。みんなが見る玄関の壁面は日ごとに動物などが増えていくことで子ども達が、「早く保育園に行きたい」という期待やワクワク感、発見につながっていくことが分かった。
- ・0歳児の制作は手型や足型をとる事だけだと思っていた。遊びながら絵の具を足で踏んでみたり、手型をたくさん押ししてみたりする中で作品ができることを学んだ。

《今後の自分の課題について》

- ・制作活動をする時には、子どもたちが遊びながら自由に楽しんで作っていくようにしたい。保育者の固定概念ではなく、子どもたちがどんな活動を楽しんでいるのか、興味をもっているのか、どんなことに挑戦させてあげたいのか考えたうえで活動していきたいと思った。また、制作活動をしていく中で、子どもたちの発想を崩さないような言葉かけをしたり、発想がさらに広がっていくような環境作りをしたりしていきたい。制作をするうえで様々なことを学ぶことができたが、何よりも自分たち保育者が「楽しい」と思えるような制作を子どもたちと一緒に遊びながら、楽しんで作っていくようにしたい。

「研修会に参加して」

白梅保育園 皆川 佑香

研修を通して自分の日々の保育を見直すきっかけとなり、保育士が子どもの成長へ大きな影響を与えているという事を知り、沢山の知識を身につける事ができた。

ここ数年は、マスクをつけている状態での保育が当たり前になってきているが、声色や目元の表情で、気持ちは伝わっていくというお話があり、笑顔や肯定的な言葉かけがいかに重要であるのかを再認識する事が出来た。「話せないからまだ分からないだろう」ではなく、普段から笑顔で、プラスの言葉を意識して一人ひとりと接していきたい。また、心を育てる経験を積んでいく事や毎日のスキンシップから、愛着関係を築き、子ども達にとって安心できる存在になりたいと思った。

4回目の研修では、これまで固定概念に、とらわれすぎていた部分があったと反省した。わくわくする気持ちを次につなげる事や子どもが楽しんでいる気持ちを大切にできるように、研修での内容を頭の片隅に置き、意識していこうと思う。

今回、清太郎さんの森での研修が中止となったのは、残念だがオンラインでのグループ討議では、講義の際の意見のみでなく、他の先生方がどのように日々保育をしているのかというお話も伺う事ができ、とても参考になった。失敗を恐れずに周りに助けて頂きながら、今回の研修で学んだ事を少しずつ日々の保育に活かしていきたい。

ときわベビーハウス 六鎗 雪乃

今回の第31次保育士研修会では、保育者として子どもと関わるうえで大切なことをたくさん教えていただいた。乳幼児期の保護者とのアタッチメントの重要性については、子どもとの愛着関係を小さなうちからしっかり築いていくかどうかで、その後の人生も大きく変わってしまうと知り驚いた。常日頃から身近にいる保育者も、子どもたちと愛着関係を築いて思いを受け止めていくことがどれほど大切かを学んだ。普段の保育の中で子どもたち一人一人と長い時間をかけてじっくり関わることは現実的に難しいことも多いかもしれないが、子どもたちの思いに丁寧に寄り添っていきたい。

最後のカリキュラムではほかの研修とは少し違った内容ということもあり、制作を楽しむことの必要性について印象に残った。夢中でやりたくなる制作を沢山経験させてあげることが、子どもならではの独創性や発想力の広がりにつながる事、そしてそのような関わりが保育者の大切な役割だと実感した。これからも制作活動をする際は、作る過程や子どもの思いに重きを置いて考えていきたい。

今後は研修で教わった内容を活かし、さらなるスキルアップを目指したい。

研修に参加させて頂き、今までの保育者としての考え方が大きく変わったり改めて初心に戻り、意識していかなければならないと強く感じたりする場面が多くあった。

特に自分の中で大きく考え方が変化した事として、子どもの経験や学びを奪わない事を強く再認識する機会となった。園生活を送っている中で様々な事を経験していくが、その中でも戸外遊びの場面での例が強く印象に残った。

今までどの年齢においても生き物と触れ合う機会が多く、特に未満児では力加減が難しく、危険を感じるとすぐに止めに入ってしまったが、講義を聞き子どもならではの経験として必要な事だと学んだ。また“長い目で見た保育を”という内容の中で、食事や身の回りの事を自分で行う大切さを改めて感じた。時間に余裕がない事などを理由にすぐに手を貸してしまう事や食事を介助しすぎてしまう事があると感じた。それは自分勝手な考えであり、子どもにとっては経験や学びを奪われている事なのだと感じた。すぐに改善していくべきだと考え直す機会となった。

今まで未満児の担当が多かったが、以上児や小学校でも未満児の今の関わり方が特に大切だと感じた。1歳児を受け持ち、言葉が出てくるようになったり知恵がついてきた事で保育者に反発したりと様々な姿があるが、発語を促すような関わり方や、子どもの考えや行動を丁寧に受け止めて愛着関係を築いていく大切さを感じた。

今回の研修を通して、保育士が子どもに与える影響とその責任の重さや保育の難しさを改めて感じた。経験年数が浅くても保育士であることには変わりなく、資格を得たプロであるという言葉が印象に残っており、しっかりと自分の意見を持って園内で共有しながら保育していくことが大事だと分かった。

これからは環境を重視した保育をという話では、特に人的環境は保育士が直接的に関係するところだと感じ、関わりを意識していきたいと思った。喧嘩等が起こった時にも今までの自分はすぐに止めに入り先回りした援助をすることが多かったが、それでは相手とぶつかるという経験をも奪っているのだと気付かされた。本当に危ない時は声をかけ、一歩引きながら一つ一つの経験を見守っていききたいと思う。

GOMAさんの講演では、目的を持っての制作ではなく遊びの中からの制作をという話もあり、制作活動について深く考えさせられた。大人の固定概念は制作には必要なく、失敗も一つの経験となり次の成功につながると分かったため、自分がやりたいと思うことを子どもたちと一緒に楽しみながら制作できる環境づくりをしていきたいと思った。

グループ討議で経験年数の近い先生たちと話す機会があり、共感したり違う考えを知ることができとても有意義な時間だった。今までの保育を見直し、今回の研修で学んだことを実践しながら自己の資質向上に努めていきたい。

31次研修会では、保育者としての基本的姿勢や子どもの姿の捉え方、保護者との関わり方を学び、研修員の方々とのグループ討議の中で視野を広げ、より理解を深めることで実践に生かせる様々なことを身に付けることができた。

特に乳幼児期の保育・教育は子どもたちの今後の人生に大きく影響を与えることや、園に通っている子どもはその重要な時期を家庭よりも園で過ごしている時間が多いことを知り、改めて自分のしている保育・教育には大きな責任があるのだと感じた。

普段の保育の中でまだ引き出しが少なく、行いたい保育を実践に移せないことや発達段階を見据えた保育ができていないのか不安になることがあった。自分なりの保育を自信をもって行っていきたいと強く思った。また、子どもたちの内面理解の部分も、子どもたちの一つ一つの言動を深く探ることで一人一人の子どもの実態や内面が見えてくることを学び、子どもたちの言動一つ一つをしっかり受け止め、探っていきいたいと考えた。今回の研修会で学ばせていただいたことを私自身の保育だけでなく、園全体に伝え、生かしていきたいと思う。

にこにここども園 金子 敏弥

第31次保育士研修会に参加して、保育に必要な専門的知識や実践的な技能を学び得ることができ、自分の保育観を見直したり、考えたりする良い機会になった。また、グループ討議を通して先生方一人一人の違った様々な視点や考え、捉え方など多くの意見に触れることができ、自分にはない様々な配慮や関わり方でとても勉強にもなり参考にしたい点が多く見つかったと感じた。

「子どもが主体である」という言葉がとても印象的で「何をするか・させたいか」よりも「何を育てたいのか・どんな経験をしてほしいのか」という考えが、子どもの成長に繋がっていくのだと学んだ。これからの保育では、子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、意欲を持って遊びを楽しめる環境を子どもたちと一緒に構成していきたい。そのためには、プラスの言葉で自己肯定感、自信に繋がる関わりや言葉掛けと共に、遊びや活動の中で子どもが何を楽しんでいるのか、何が育っているのかを見きわめ、環境の構成、評価、改善を繰り返しながら試行錯誤して保育の引き出しを増やしていったり、専門性・実践力を高めたりしながら保育を楽しんで子どもと共に成長していきたい。

保育者が子どもに一生の影響を与える環境だと改めて再確認することができ、私たちの影響力を意識しながら保育士としての自覚とプライドを持ち、子どもに良い影響を与えられる保育士として努めていきたい。

今回の研修に参加して保育に対する姿勢や乳児保育、アタッチメント、表現活動など様々な分野について学ぶことができた。その中で印象に残ったのが2つある。

1つ目はアタッチメントについてである。アタッチメントとは子どもが安全感、安心感に浸ろうとすることであり、単なるスキンシップとは異なるということを学んだ。安心感子どもの成長に大きく関わるため、今回学んだ「安心感の輪」を大切にしたいと思った。大人は子どもたちにとって安全な避難所、安心の基地であるべきというのが印象的だった。子どもの感情に寄り添い、受け止めることで、また挑戦しようとするの繰り返しが自発性や主体性、意欲、内発的動機付けにつながると学んだ。子どもたちが自信をつけられるような遊び、そしてその後の対応などを考えていきたい。

2つ目は制作についてである。保育者は子どもたちに制作をやらせているということが印象に残った。私も日々の保育を振り返ってみると、飾りや展示のためにやらせがちになっていたことに気付いた。製品が先に立つ制作ではなく、遊びが先に立つ制作を心掛けていきたいと思った。また、私はよく「子ども目線になる」という言葉を使うが、大人が子ども目線になることは難しいと学んだ。子ども目線になっていたつもりなのかもしれないと感じた。子どもの発想に近づき、自由な発想を守っていきたい。

今回の研修では新たなことを知ったり、理解を深めたり、様々な考えに触れることができた。学んだことを実践していくことで身に付け、保育士として成長していきたい。

大曲東保育園 遠田 雛子

研修に参加し、保育士は子どもの一生に影響を与える重要な役割を担っていることを再確認した。改めて責任感を持って保育をしていきたいと強く感じた。

「子どもの話し方で担当が誰か分かる」といった内容が印象に残っており、自分の何気ない言動や関わりが、今後子どもの性格に大きな影響が出てしまうかもしれないと今までの保育を振り返り、子どもの見本となるべき姿を見直すことができた。

「子どもの主体性」について学んだ。普段から意識していたが、保育士の都合で中断したり、手をかけすぎてしまい自ら考える機会を奪ってしまい、大事な経験を制限していたと感じた。子どもの成長の為にという思いから、子どもが今感じた喜びや発見を見逃していたのかもしれないと、はっとした。一人一人が自己発揮をして新しく嬉しい発見ができるような関わりや環境を作っていきたいと思った。

グループ討議では、討議を重ねることで以前よりも自分の意見に自信を持つことができるようになり、他園の先生方の意見を聞くことで新たな発見をし、学びを深めることができた。様々な視点に触れ、以前は気付かなかったことにも気付くことが増え、保育をしていて楽しいと感じる。不安になった時は何度も立ち止まり、今回の研修で学んだことを思い出し、子ども達の未来の為に楽しんで保育をしていきたいと思う。

今回の研修では、保育の楽しさと難しさを改めて感じた。また保育の基本から学ぶことができ、自分の保育を振り返ることのできる有意義な研修だった。

保育の基本については、保育者としてあるべき姿を学び、自分の言動・行動ひとつで園の印象が決まることや、子どもと向き合う中での責任感を学んだ。当たり前を当たり前と思わずしっかりと心にとめておきたい。また自分の心に余裕を持ち、子ども達と向き合っていく中で、発達に合った環境、遊びの工夫を心がけていきたいと思った。失敗を恐れず、何回も失敗しながら自分の糧にし、成功させていきたい。

研修を通し、子どもにとって保育者が安心できる場所でありたいと思った。そして子どもに「この先生なら安心でき守られている、自分は愛されている」と感じられるような保育者になりたい。子どもたち一人一人との関わりの中で、一緒に楽しんで遊んだり、気持ちに寄り添いながら関わり、言葉かけをしたりすることが大切だと思った。子どもが楽しむには自分自身が楽しむことが大切となるので、自分が楽しいと思うことを子どもたちと一緒に楽しんで様々なことに挑戦していきたい。

研修を終えるごとに自分の中で、新たに保育について考える時間が増え、挑戦してみたい気持ちが大きくなった。研修をしている間、自分のクラスを支えてくれた同僚に感謝し、学んだことを活かしながら教育、保育に努めていきたい。

研修会に参加させていただき、多くの学びを得ることができた。保育に対する基本姿勢について、0歳から就学前までの発達過程を見据えた保育についてや、乳児保育で大切なことについて、適切な環境構成や遊びを通した表現方法についてなど、幅広い学びを通してより広い視野を持つことができ、子どもと信頼関係を築いていくために大切な関わり方について深く理解することができた。子どもを肯定的に見て受容的・共感的な言葉をかけること、不安な気持ちをしっかりと受け止め、安心できる環境を作っていくこと、子ども一人一人を見つめ色々な関わりを試してみながら子どもが体験や失敗を重ね成長していけるよう支えていくことが大切であると学び、これからの保育に活かしていきたいと感じました。また、これまでの自分の保育を振り返り、子どもの発想ややってみたいという気持ちを大人の考える保育や固定観念で壊してしまわないようにすることを特に大切にしたいと感じた。子どもは体験することで学ぶことも多くあるということから子どもの体験を奪わないよう、遊びの中で主体的に学んでいけるような環境構成や援助を意識して保育していきたいと感じた。グループ討議では、自分の考えや意見がより深まったり、新たな発見が増えたりしてとても貴重な時間でした。研修での学びを活かしていくためにも失敗することを恐れず、様々な方法を試しながら信頼される保育士を目指していきたい。

乳幼児期は生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、遊びや生活を通して発達に必要な様々な経験を重ねている。周囲の環境により成長していく子どもにとって、最も身近な環境である保育者の存在は重要であり、応答的な関わりや安定したアタッチメント形成、育ちと発達を踏まえた援助が必要なことを学んだ。子どもの言葉に耳を傾け、喜びに共感し、気持ちを十分に受け止め、様々な体験活動を通じて五感で学ぶ豊かな直接体験は、子どもの内発的な意欲や探索行動へと広がり、自己肯定感や主体性、社会性といった心の育ち、いずれ自立へと繋がる生涯発達の重要な鍵と言える。

子どもが今、何を必要としどのような育ちに向かっているのか、そして、その育ちを保障するために必要な環境や援助が何か、一人一人に必要な資質能力が獲得出来るよう、見通しを持って保育環境を整える。それとともに、自分らしさを発揮し、思いを実現できるよう遊びを見守りながら、子ども達の心の動きを捉えて共感する。

研修を通して、発達の多様性や、どうしてだろうと感じていた子どもの行動の背景にも必ず理由があること。それを想像し、理解できると、子どもの見方や捉え方が変わるということを知り、研修で学んだことを実践してみることで、子どもとの関係性にも変化が見られた。今後も、一人一人の内面や行動を理解し、子ども達の園生活が豊かなものになるよう保育を実践していく。

研修会に参加し、自分のこれまでの保育を振り返り見つめ直す機会となった。一つ目は、大人の都合で子どもをコントロールしてはいけないことである。大人の都合で活動を切り上げたり、制限してしまうことで、子どもの主体性が育たないと学んだ。時間に余裕を持ち、一人ひとりに合った時間配分にするなど、どんな時でも子どもが自由だと感じられる環境でのびのびと遊べるような保育を心掛けたい。

二つ目は子どもは完璧でない環境で成長するということである。子どもの為にと、つい先回りしてトラブルや危険を回避させてしまうが、時には思い通りにならない体験も子どもの成長に必要だと学んだ。

三つ目は遊びの中で何が一番大事なのかということ。散歩は列になって遅れないで歩くことが大事なのか、制作は手順の通りに上手に作ることを目的なのかと問われ、ハッとした。自然物を見つけて触れたり、自分で試行錯誤したりする中で探求心が育まれる。遊びの中で子どもが楽しむことが大事だと改めて気付いた。子どもの自ら育っていく力を引き出せるように援助することが大事だと学んだ。

研修を通して人生において最も重要な乳幼児期に関わる保育士の責任の重さを感じ、やりがいや喜びを感じた。今回の学びを今後の保育に生かし、子どもにとって“嬉しい先生”であり続けたいと思う。

研修会を通して、自分の保育を振り返ることが出来た。保育者という時間が長い子どもにとって一番のモデルは保育者であると再認識し、乳幼児期の育ちが人間の根本であるということを忘れず、子どもに様々な経験をさせたいと思った。

子どもの行動を先回りをして止めてしまいがちだが、大人から見ると困った行動が子どもが成長する為の経験であることも学んだ。子どもの行動をまずは見守ることが大事だと実感した。子どもがしたいことを十分に出来るように見守り、ゆとりを持った保育を意識していきたい。また、探索活動は自分で学ぶ学習となり小さい子ども程重要な経験だが、安心して探索活動を行う為にはアタッチメント形成をし、子どもに安心感を与えるということが重要だと学んだ。大人が安全な避難所・安心の基地となることで、子どもが失敗したり感情が崩れたとしても、感情を立て直し再び探索活動を行えるように背中を押すことが出来、子どもは探索活動の中で成功体験を積み重ね自分に自信を持てるようになるのだと思った。子どもに安心感を与えられるよう子どもの気持ちに寄り添い、探索活動を促す・崩れた感情を立て直すという避難所・基地としての役割を忘れずに保育していきたい。

さんさん保育園 小川 舞弥

研修会に参加し、どの回でも初めて知ることや再度確認できたことがあり、学びの多い時間だった。印象に残ったことは、第1回目の講義で出てきた“担当するクラスには自分が吐いたプラスの言葉とマイナスの言葉がどのくらいあるか”という言葉だ。危険とを感じる場面では、禁止語や否定語が飛び交ってしまう。すぐに「危ない」「～しない」「だめ」ではなく、子どもの行動から気持ちを汲み取り、まずは受け止めるようにしていきたい。そして穏やかな口調で話しかけ優しい雰囲気を感じたいと思った。

二つ目は、第3回目の講義の中で学んだ“ペリー就学前研究”では、乳幼児期に非認知能力を身につけた子どもとそうでなかった子どもでは大人になった時の経済状況や幸福度に差が出ることを知った。子どもの気持ちや欲求を個々に受け止め、非認知の基盤である自己信頼と他者信頼を感じられるように関わっていきたい。

三つ目は、第五回の講義で出てきた制作方法について、これまでは製品が先に立つ制作を行うことが多かった。子どもにとって遊びが先に立つ制作の方が発想力や制作意欲の向上に繋がると学んだので今後取り入れていきたい。

全5回の講義を受講し、新人保育士の役割を理解した。コロナウイルスが流行し今まで通りの保育ができなくなったからこそ経験が少ない保育士が意見を言うことでチームが高まると知った。先輩からの指摘や失敗に落ち込まず次に繋げて成長していきたいと思った。

今回の研修では、保育の専門性や人間性を高める上で求められている資質や身につけておかなければならないことなど、自分の保育を改めて振り返りながら学ぶことができた。たくさんの講話やグループ討議を通して新しい知識や各園の取り組みなど、今まで自分に足りなかったものを得ることができ、とても貴重な研修となった。

今年度 0 歳児を担当しているが、コロナ禍のマスク生活で表情から思いや感情を伝えるべく、子どもたちに自分が伝えたいことが上手く伝わっているのかが分からなくなることがあった。その中でコミュニケーションを取ることの難しさも感じていたが、“目は口ほどにものをいう”といった言葉からもあるように目の動きや言葉がけ、身振りなどを存分に使い、工夫次第で効果的に関わるができることが分かった。今回学んだ様々な方法をうまく活用しながら子どもたちとコミュニケーションをとっていきたい。

また、GOMA さんの講話が特に印象的で、大人の固定概念が子どもたちの持っている自由な発想や表現を無くしてしまうこと、アートは無限大であり表現の仕方は人それぞれであること、多くの失敗体験がその後の大きな学びにつながることを学んだ。

今後は、失敗を恐れずに様々な経験、体験ができるような環境づくりや子どもたちの思いを尊重した関わりを意識し、日々見られる成長に喜びを感じながら保育をしていきたいと思う。

今回の研修に参加して保育者として子ども達への関わり方や子どもの発達について理解することができた。また、保育では環境設定がとても大切であり、年齢に合った遊び方や子ども達が過ごしやすい環境になるように保育者が子どもの様子を見ながら計画し実行していく必要があると感じた。私は、保育現場で禁止言葉や否定言葉を言ってしまう場面があり、受容的・共感的な言葉かけを意識していきたいと思った。たくさん褒めてあげる先生がいるクラスは温かい雰囲気ができるという話を聞いて私もそのようなクラスにしていきたい。危険な事をした時など、叱って思いを伝えるのではなく、「～してほしかったな」と具体的に伝え、繰り返し伝えていく必要があると知った。

GOMA さんの制作についての講演では、未満児～以上児までの制作活動の仕方や保育者が子どもの可能性を引き出してあげる為にはどのようにしたらよいのかという事を深く知ることができました。作品が先に立つ制作をしてしまう事が多く、子ども達は制作をしにきているわけではないという話を聞いて、改めて子ども達と楽しく制作するという意識が足りなかったと感じさせられた。今後は、遊びが先に立つ制作をしていき保育者も一緒に楽しみながら制作できるようにしていきたい。

研修会を通して、様々な講演を聞き、自分の保育を振り返るきっかけとなった。就学前教育の充実化のため、あらゆる発達段階を経験しておくべき時期に、経験させる保育の重要性や、そのためには子どもが主体的にやる・考える環境を整えていく保育者の役割があるということを知ることができた。子どもの発達を援助していくためには、発達段階についてもう一度理解を深めていく必要があり、日々自分の保育に関する知識を深めることの大切さにも気づくことができた。

また、「思い通りにいった保育は子どもの保育ではない」という言葉が印象的で、指導案を立案するのは大変だが、指導案に沿って保育を進める中で、違う子どもの姿になった時に動揺してしまうことがある。しかし、立案したものと違う子どもの姿、“ハプニング”に目を向け、保育者が思いつかなかったことを子ども達はできている＝考えることができているとして、捉えることが大事だと知ることができた。

そして、“育児で大切なのは「ほどよい関係」”完璧ではない関係こそが子どもをよく育てるということで、すべてに保育者が介入するのではなく、多少のストレスを与える機会を持つことも大切だということを知ることができた。

これからも子ども達の成長に良い影響を与えられるように関わっていきたいと思う。

研修会に参加し、保育士としての基礎的なことや幼児教育の重要性など幅広く学ぶことが出来た。保育士という職業は、乳幼児期という人間形成にかかわる大事な時期に関わるととても重要な職業だとこの研修を通して改めて感じた。沢山の講師の方々の講義を聞き、自分の保育を見直したり生かしたりすることが出来た良い経験となった。

子どもに対する関わり方や子どもに経験させたい環境構成は、自分の中でとても印象に残っている。必要以上に声を掛けたり関わったりするのではなく、子どもの様子を見守り状況や様子に応じた関わりが子どもを育て主体的な保育になることを学び、日々の保育に生かしている。側で見守りながら必要に応じた関わりを意識することで、子どもの成長により気付くことが出来たり、それを保護者に話すきっかけとなってより関係性を深めることが出来たりしている。環境構成では、「五感を刺激する遊び」を意識して、実際の草花等に触れる機会を設け、戸外でのびのびと遊べるようにした。園の周りは、自然で囲まれているので近くで見たり触れたり出来る幸せを感じながら今後も保育していきたいと思う。

グループ討議では、様々な先生方の考え方を聞いたり、普段悩んでいる事を共有し意見し合ったり、他園の保育士の方と話すことが出来た良い機会となりました。違った考え方を聞くことで自分の保育に対する考え方が深くなったと思った。

私はこの研修で、普段の保育だけでは得られない、多くの学びや知識、考えを得ることができた。保育の中で遊びを展開することも大事だが、全て指示してしまうのではなく、肯定語、誘い語、疑問語、提案語を使い、適度に関わる保育が大切だと学んだ。今だけでなく子どもたちの将来、先のことも考えて、「この経験をさせたい」と側で見守り、言葉掛けをして保育をしていきたい。そして、しかるだけが伝え方ではないということをお忘れずに、言葉を選び、言い換えて子どもたちに伝えていきたい。

今までの研修で、一番印象に残っているのは GOMA さんの講義だった。「終わったから遊んでいい？と言われる制作は子どもにとって毎日遊んでいるものよりつまらないということ」という言葉を聞き、日々の制作について考えさせられた。制作する時、とりあえずやりやすそうだからやる、保育の本に載っているからやるという理由で決めがちだったが、一番大事なことは遊んで楽しんで作ることであり、作業することではないと学んだ。これからは、保育の中で遊んでできたものを加工し、行事などの飾りにするなど、個性あふれる作品にしていきたい。そして、一人一人が楽しめるように工夫して、遊びが先に立つ制作をしていきたい。

グループ討議では、それぞれ違う環境で働く保育士の方々と、意見や情報交換ができ、とてもいい経験になった。学んだことをこれからの保育に活用していきたい。

みそのベビー保育園 松本 綾音

この研修では、一方的な学びにならないように、保育の専門性について考えながら学ぶよう意識した。経験年数の異なる保育士数名が毎回同じメンバーで話し合いをして、意見交換ができたことも大きな学びとなった。ライナスの安心毛布のように安心できるものがある子どもに、どこまで持ち込みをさせているかという話題では、園それぞれの環境構成や、保護者との関わり、園のルールによって様々な対応がされており、自園との違いに驚くこともあった。子ども一人ひとりが安心して保育園生活を送ることができるように向き合い、保護者とよく連絡を取り合っただけで気持ちに寄り添っているという点ではどの園でも共通していた。

現在、満3歳までの保育園で0歳児を担当しており、特にアタッチメント、愛着関係についての講話が心に残っている。「安心の輪」がうまく回っていくために必要な大人の役割として、感情を立て直す安全な避難所になること、探索を促し行動を後押しする安心の基地になるということ、「痛かった」「怖かった」という気持ちに共感し、代弁しながら同じ表情で映し出すという行動は、その共感の姿勢から子どもの心の理解能力や、思いやりが育つということが分かった。研修を通して自らの保育が子どもの心身の発達にどのように結びつくのか理解できたことで、これからの保育では知識を持った上でより意識して子どもと関わることをできると感じた。

研修会に参加し、1回目、2回目に行なわれた、「保育のステップワン」「子どもと関わる人にとって大事なこと」の研修では、保育士になるまでの基本や、大切さを学んだ。自分も保育士1年目の頃は、分からないことがたくさんあり、その都度、先輩の方々に質問や疑問を聞いて教えていただいた。5年目になった今も、分からないことがある時は、たくさんの先輩方に支えられ、保育のことや遊びの環境構成などアドバイスを頂いている。保護者対応や、身なり、言葉遣い等にも気をつけながら日々の保育に努め、これからも心がけていきたいと改めて感じる事ができた。

一番印象的だった研修は、アーティスト GOMA さんの研修だ。もともと保育士をしていた GOMA さんが、絵に興味をもち、言葉の発達や障がいを持っている人たちも絵を見て目印だと分かるような支援やイラストを手掛けていることを教えていただいた。バリアフリーが増えてきている中で、絵を見て目印となるような場所を用意したり、一般の方たちも楽しんで絵を見ることのできるようなイベントがあることも素敵だと思った。計、4回の研修に参加し、今まで自分が保育してきた中で足りなかったこと、もっとこうしたらよかったこと、こんな保育士になりたいなど、いろいろな気持ちを感じられる事ができた。また、改めて自分の保育を見つめ直す機会となった。

グリーンローズ保育園 大谷 遥菜

今回この研修に参加させていただき、保育士の役割や子どもとの関わり方などを深く学ぶことができ、改めて自分の保育について考えさせられた。

なかでも、プラスの声かけをする大切さの話が印象に残っている。4回受けた内容に共通して子どもの主体性や自己肯定感を高める重要性についての話が出ており、子どものありのままの姿を受け止めて寄り添って関わる事が、安心感や信頼関係の基盤となっていくのだと感じた。研修をもとに、良いところを見つけた際にはすぐに伝えたり、否定的な言葉をプラスに言い換えたりすることを心がけると、子どもの笑顔がたくさん見られるようになり自分自身も嬉しい気持ちになった。関わり方で悩むときもあるが肯定的な声かけを心がけて接することを大切にしていきたい。

また、改めて自分自身も遊びを楽しみ子どもと一緒に発見や面白さを共有していきたいと思った。一緒に遊んでいく中で一人一人に合った環境構成や関わり方を見つけ子どもが日々楽しいと思える居場所を作りたいと研修を通して感じた。子どもに失敗はなくすべてが経験であるため、「やってみよう！」の気持ちを大切に温かく見守っていきたい。研修で学んだことを生かして、子どものすこやかな成長と自分自身のスキルアップに繋げていきたい。

今回の研修に参加して、自分の保育を見直す良い経験になった。

アタッチメントの話では、「安心感の輪」という言葉を初めて聞き、自分も今関わっている子どもたちの安心できる居場所になれるような保育をしたいと思った。そのような保育をするには、自分が保育を楽しみ、笑顔でいることが大切だと思い、これから笑顔でいることを今以上に心がけていきたい。保育の中で自主性が大事にされているが、具体的に理解できていない自分がいた。子どもたちへの関わり方でポジティブな言葉かけをし、「どうしてこうなったのかな？」や「先生は、～と～だと思うよ。〇〇君はどう思う？」と疑問形での問いかけをすることで自分で考える力が身につくこと、子どもたちの発達段階に合わせた遊び、少し発達した遊びと先の遊びを取り入れることで子どもたちに良い環境になることを知り、自分のクラスだとどんな遊びを取り入れていけたら良いのか意識して保育をしている。GOMAさんの制作の講話では、「遊んでいたらこんな作品ができた」という制作を自分もやってみたいと思った。講話を聴くまでの制作は「もうすぐこの行事があるからこの制作を…」と考えていたのでこの考え方を見直して子どもたちが「これを作った！」という意識ではなく「遊んでいたらこんなのができた」と思えるような導入や活動をこれから考えていきたい。この研修を通して身についた知識が無駄にならないように、また保育に活かしていけるように日々の中で研修の内容を振り返っていこうと思う。

幼保連携型認定こども園ナーサリーふじ 土門 明日香

今回の研修では、講師の先生方の貴重なお話を聞き、多くの学びを得ることが出来た。まずは、保育者としてあるべき姿について再確認し、子どもに関わる仕事をする上で学び続け、より良い保育を目指すことの大切さを学んだ。正解のない仕事で、学んで自分の中に知識を増やし、実践し、振り返って改善していく流れを繰り返していくことで保育はより良いものになっていくのだと感じた。より良いものにしていこうという向上心を忘れないようにしていきたいと思った。大切な時期に関わっているという自覚と責任を持って、どのように育てほしいか考えながら保育していきたいと思う。また、0歳児の担任をしていることもあり、アタッチメントの講義では、乳児期の関わりの重要性を学び、この時期の関わりで基盤ができてしまうことの責任の重さを感じた。非認知能力や自己肯定感などを育むことの大切さを知り、そのために子どもの姿をありのまま受け止め、認めること、安心の基地でいられるよう心掛けていきたいと思った。遊びが子どもの学びであり、主体は子どもであるという基本を忘れず、固定概念にとらわれず頭を柔らかく使いながら子どもが楽しいと思える保育を実践していきたい。グループ討議で他園の先生方と意見を交わすことも、自分にはなかった考えや感じ方を知ることができたり、悩みを相談し合えたりできてよい学びとなった。

6月から研修に参加させていただき、たくさんのことを学ぶことができた。第1回の「保育のステップワン！」では身だしなみや言葉遣い、第2回の「子どもと関わる人に大事なこと」では保育者としての心構えを学び、第5回の「遊びから生まれるアート」ではアートという視点から保育を見つめ直し、何のために子どもたちが制作をしているのか改めて考えることができた。第3回目「赤ちゃんの発達とアタッチメント」と第4回目「清太郎さんの森」は参加できず大変残念に感じている。

研修に参加してみて今までの自分にはなかった考えや多角的な考え方ができるようになったと思う。特に私は制作の内容を考えたり、実際に作ってみたりすることに苦手意識があったので、第5回のGOMAさんの講義が一番印象深かった。「何のために、誰のために制作をするのか」「先生もやっていて楽しい制作をしましょう」などの先生の言葉は衝撃的だった。子どもたちのしている遊びがだんだんとアートになっていく過程や子どもたちの夢中になっている表情を見て、自分もこんなふうに制作ができればなと感じた。

グループ討議が自分の成長に繋がったと思う。人前で話すことは不得手な私でしたが、同世代という事もあってか少しずつ話すことができ、司会を務め、グループのメンバーとコミュニケーションを取りながら討議していくことも経験し、段々と自信に繋がっていった。この経験を実際の保育の現場でも活かしていけるように尽力していきたい。

みつば保育園 三浦 美砂希

前半は乳児期について学び、最後の研修では実践的な内容の学びとなった。清太郎さんの森に行けず残念ではあったが、秋田にそのような場所があることをはじめて知り、いつかは行ってみたいと思う。

全ての研修で乳幼児期は愛着が大切、保育園での経験は子どもにとって大切なものと学ぶことができた。学生の頃にも愛着については学んでいたが、数年保育士を経験してから学ぶと体験を元に自分が子どもとどのようにかかわる必要があるか考えながら学ぶことができた。また最後のGOMAさんの研修で家庭ではできない経験をどんどん保育で行っていきたいと思った。

幼児クラスの担任をしているが自分も知識を増やし、子どもたちと楽しんでいきたい。さらに毎月必ずハサミやのり、絵具を使って制作を行っているが「〇月だから〇〇を目指して」と目的が固まりすぎていたのではないかと思った。例えばこれからだと冬にちなんで雪の制作をしたいと考えているが研修で学んだことを活かして、スタンプ遊びをしていたら雪だるまになっちゃった！となるような「楽しんでいたら、いつのまにかに〇〇ができていた」や「これって〇〇に見える」など目的を明確にして制作するのではなく楽しんでいたらできたとなるような保育をしていきたい。

今回のキャリアアップ研修に参加して大きな学びがあった。それは、学び続けることの大切さである。今回の全 4 回の研修では、保育に関するだけでなく社会人としての心構えなど幅広く学ぶことができた。また、研修を受けたその日にグループ討議を行うことで自分の考えとは違う角度からの考えを知ることができたり、新たな気づきがあったりした。新鮮な気持ちで意見交流を行うことで、学んだことをより掘り下げて考えることができたと感じる。

全 4 回の研修の中で心に刺さった言葉がある。それは、GOMA さんの「1 日 10 分 YouTube をみよう！」という言葉であった。その言葉を聞いたときは、正直意味がわからなかった。お話を聞いていくうちに様々なツールを通して学ぶ楽しさを感じた。メディアや SNS が発達している現代、先輩先生の素敵なところを見て学び自分のものにして保育関係の本を読んで学んだりするだけでなく、1 日 10 分 SNS に時間を使うことで、新しい知識を積んでいきたいと強く思った。便利な時代に生きているからこそ最大の武器として活用できればいいなと思う。もちろん見たものすべてを実践するのではなく、自分はどのような保育をしていきたいのかをよく考え取捨選択しながら自分のものにしてきたい。そして、経験を積んでいく中で自分のカラーを見つけていきたい。

研修を通して、保育者としての心構えや知識などを学ぶことができた。今まで知っていたことでも深く理解することができた。普段の保育を振り返って、自分では意識しているつもりになっていることがあった。日々の記録でしっかりと反省し改善していくようにしたい。特に言葉かけの仕方では、否定語を使ってしまいがちになっていることや、子どもたちに何を感じさせたいかを考えた声掛けがあまりできていないことなどがあった。子どもたちにとってどのような声掛けが伝わりやすく、より良い育ちにつながるのかを常に考えるようにしたい。

乳児保育についての講義で、保育者の関わりがその子の人生に影響を与え続けるという言葉が印象に残っている。保育者は保護者の次、または同じくらいに影響力をもつ身近な大人であるということを忘れてはならないと思った。その子の生涯に関わる環境の一員としての自覚をもち、子どもたちに向き合っていきたい。子どもの年齢に関わらず、一人一人の思いを汲み取り、認めていくことでその子に寄り添った保育ができるように心がけていきたい。

グループ討議では、他の園の様子やいろいろな考え方を聞くことができ、環境設定や保護者対応での工夫などを知る機会となった。他園の事例や対応についての話を聞き、考えの幅が広がった。今後の保育に積極的に取り入れ、保育の改善に努めていきたい。

今回の研修に参加させていただき、保育士としての心構えや姿勢、基本的な子どもへの接し方、子どもとの関わりにおいて大事なこと、乳幼児期の発達、遊びの中のアートや制作について、幅広くたくさんのことを学んだ。

家庭で過ごす時間より保育園で過ごす時間が長くなっている現代の子ども達にとって、保育園での育ちがとても重要になってきていることや、本来家庭生活の中で経験すべきことを大人が用意してあげなくては経験できなくなっている時代だということもわかり、子ども達が「生きる力」を身につけていけるよう、自分は子ども達に何を経験させてあげられるだろうか、どんな経験が子ども達の育ちにとって大事だろうか、と改めて考える良い機会となった。

成功だけでなく失敗も経験すること、全てを用意せず子ども達の主体性を大事にすること、家ではできない経験をすること、その経験から子ども達が何を学ぶことができるか、ねらいや目的をしっかりと考えて日々の遊びや活動に活かしていきたいと思う。

子ども達にとって何が大事かを常に考え、これからも保育者として子ども達や保護者と接していく中で、今回学ばせていただいたことを実践していきたい。

これまでの研修に参加させて頂いたことで、子どもたちとの関わり方や職員としての働き方などを改めて考えることができた。保育士という職業は人間形成にかかわる大切な仕事であり、自分の行動や言葉等の全てが子どもに伝わるということを理解した。子どもと信頼関係を築き、どういう保育をしたら成長につながるのかを考えて接するようになりたいと思った。そして、研修の中で得た知識を自分の中だけで終わらせず、園全体で共有できるようにしたい。

自然の中で遊ぶことで育まれる力がたくさんあるという事を学び、秋田県はとても自然豊かで様々な動植物を身近に感じることができるため、外でのびのびと遊ぶことで五感を刺激し子どもの成長へとつなげたいと思った。子どもの心と体がすくすくと育つように保育のねらいを考え、保育していきたいと思う。また、グループ討議では他のグループの意見・感想を聞くことができ、より一層自分の考えを深めることができた。特にGOMAさんの研修で「絵具を混ぜた時に最終的に泥のような色になってしまった時の対処法は？」という質問は、私も同じ経験があり参考になった。今回、清太郎さんの森には参加することができず残念だったが、機会があれば行ってみたい自分の体験として得たものを活かせたらと思う。

第31次保育士研修会研修員名簿

No.	市町村名	施設名	氏名	経験	No.	市町村名	施設名	氏名	経験
1	横手市	白梅保育園	皆川 祐香	3	16	北秋田市	南鷹巣保育園	金 梨 紗	3
2	横手市	ときわ ベビーハウス	六 鎗 雪乃	3	17	羽後町	たしろ こども園	遠山 愛 稀	5
3	横手市	旭保育園	斉藤 試歩	4	18	湯沢市	いわさき こども園	土田 理 央	1
4	横手市	浅舞感恩講 保育園	藤 肥 泉 弥	5	19	湯沢市	湯沢こども園	安達 早 紀	2
5	大仙市	西仙あおぞ らこども園	瀬野 裕 佳	3	20	秋田市	みそのベビー 保育園	松本 綾 音	4
6	仙北市	にこにこ こども園	金子 敏 弥	1	21	秋田市	ウェルビュー いずみこども園	安田 奈 菜	5
7	仙北市	だしのこ園	藤原 美 空	1	22	秋田市	グリーンローズ 保育園	大谷 遥 菜	1
8	大仙市	大曲東保育園	遠田 雛 子	5	23	秋田市	ナーサリー 小鳥の木	小野 寺 慈	3
9	大仙市	大曲北保育園	照井 ことみ	5	24	秋田市	幼保連携型認定こども園 ナーサリーふじ	土門 明 白 香	1
10	由利本荘市	中央保育園	斎藤 千 尋	3	25	秋田市	白百合いずみ こども園	清 氷 白 南 子	2
11	由利本荘市	内越保育園	伊藤 ちづる	2	26	秋田市	みつば保育園	三浦 美 砂 希	4
12	由利本荘市	鳥海保育園	村上 上 萌	1	27	秋田市	こばと保育園	斎藤 彩	2
13	にかほ市	勢至保育園	宮崎 夏 林	3	28	秋田市	こぐま保育園	二見 呼 幸	1
14	能代市	さんさん保育園	小川 舞 弥	2	29	秋田市	幼保連携型認定こども園 あおぞらなないろ園	ア 麻 生 利 恵	1
15	能代市	まつばら保育園	近江谷 日向 葵	2	30	秋田市	こどものくに 保育園	武藤 美 希	5

研修部担 当副会長	轟 保 育 園	九 嶋 洋 子	研修部員	第二ルンビニ園	大澤美奈子
研 修 部 部 長	かわぐち保育園	熊 谷 優 子	研修部員	ウェルビューいずみ こども園	三浦裕美子
研 修 部 副 部 長	牛島ルンビニ園	吉 村 美 奈 子	研修部員	角間川保育園	田口理香子
研修部員	ゆり保育園	村 上 江 利 子	研修部員	勢至保育園	竹内るり子
研修部員	まつばら保育園	小 田 島 久 子	研修部員	あ お そ ら こども園	菊 子 恵 美

